

狛江市食育推進計画 評価報告書

平成 28 年 4 月

狛江市

< 目 次 >

はじめに	1
第1章 狛江市食育推進計画（平成23年2月作成）の概要	2
計画策定の背景	2
計画の位置づけ	3
狛江市の食育推進計画の基本的な考え方	4
第2章 狛江市食育計画の進捗状況	6
第3章 狛江市食育計画の評価	8
1 評価の目的	8
2 食育推進の達成状況	8
3 狛江市食育推進計画の評価	15
資料1 平成27年度食育アンケート調査結果	17
<15～65歳の市民>	18
<小学生>	24
<中学生>	28
食育に関するアンケート調査票（一般）	33
アンケート調査票（小学生）	34
アンケート調査票（中学生）	35
資料2 食育推進事業実績	36
資料3 狛江市健康づくり推進協議会委員名簿	38

はじめに

「狛江市食育推進計画（平成 23 年 2 月策定）」は、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年を計画期間として策定されました。平成 27 年度は計画の最終年度にあたり、狛江市では、市長の諮問機関である「狛江市健康づくり推進協議会」に「狛江市食育推進計画」についての評価を諮問し、この評価報告書を作成いたしました。

国は、平成 28 年 3 月に「第 3 次食育推進基本計画」を策定し、それに合わせて、狛江市では、平成 28 年度に「狛江市食育推進計画（第 2 次）」を策定いたします。

この評価報告書は、「狛江市食育推進計画（第 2 次）」を検討する基礎資料といたします。

第1章 狛江市食育推進計画（平成23年2月策定）の概要

計画策定の背景

近年、社会経済情勢の変化やライフスタイルの多様化に伴い、私たちの食を取り巻く環境は大きく変化しています。このような食の環境の変化によって、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向、食の海外への依存、食の安全上の問題の発生、伝統ある食文化の消失などが生じています。

このような状況において、国は、健全な心身を培い豊かな人間性を育む食育を推進するため、総合的かつ計画的に施策を推進することなどを目的に、平成17年7月「食育基本法」を施行しました。また、これを受け、国は平成18年3月には「食育推進基本計画」を、東京都は平成18年9月に「東京都食育推進計画」を策定しました。

狛江市においても、生涯にわたり、健全な心身を培い豊かな人間性を育むためには、市民一人ひとりが「食育」の意義や必要性を理解し、実践、継続していくことが必要です。そのためには、家庭、学校、地域、市、企業などそれぞれが役割を果たすとともに相互に、連携を深めていくため、「食」に関する地域内交流や地域活性化を通じた「食」からの地域づくりを目指して、狛江市食育推進検討委員会を設置し「狛江市食育推進計画」を策定することになりました。

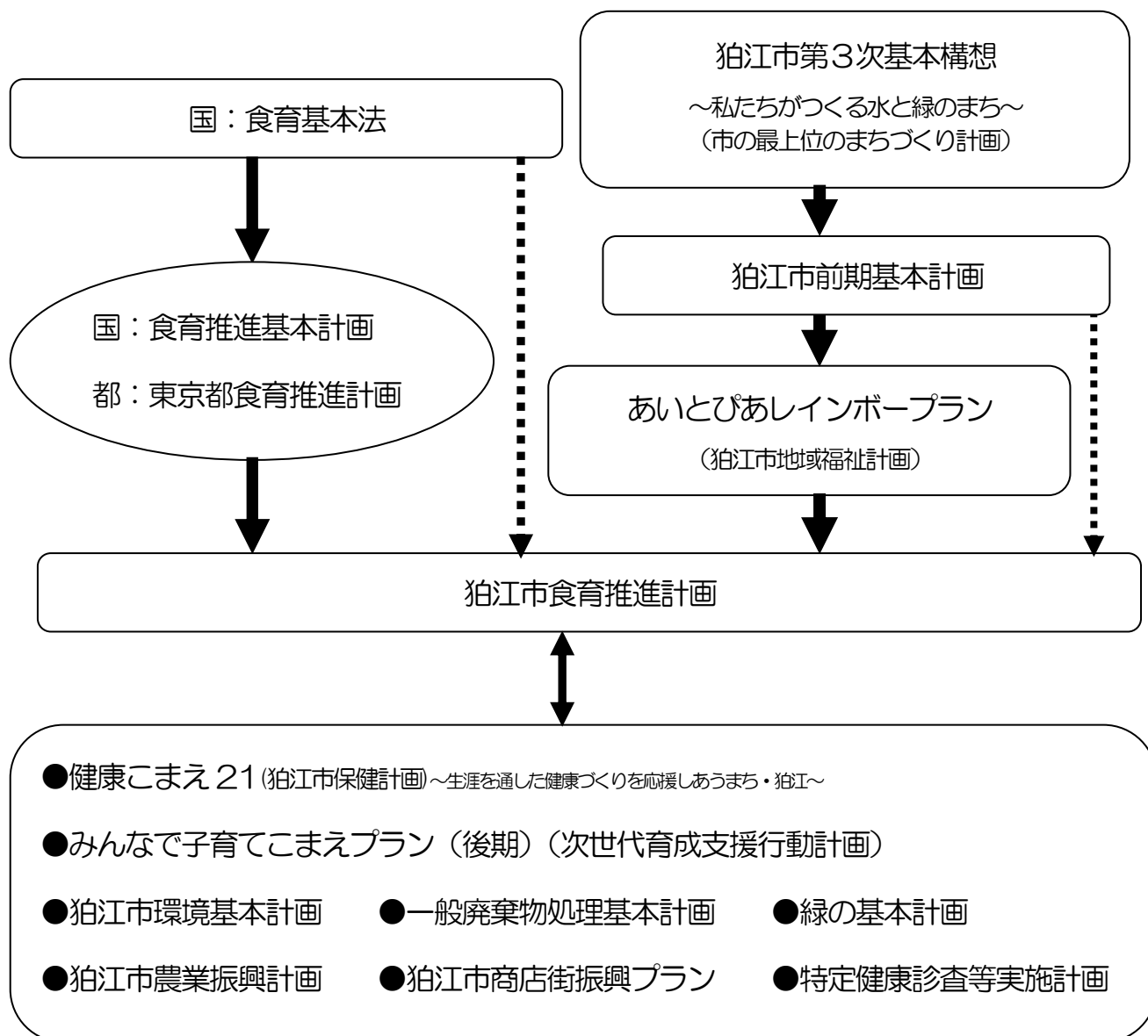
「食育」とは？

- 食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものである。
- 食育は、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てることである。
- 食育は、個々人の生命・健康を維持する上で不可欠ばかりでなく、「おいしい」「楽しい」という情緒的・文化的側面や人間関係、しつけなどの社会的・教育的側面を持つものである。

第1章 狛江市食育推進計画の概要（P2～P5）については、狛江市食育推進計画（平成23年2月策定）より抜粋したものを掲載しております。

計画の位置づけ

本計画は、食育基本法第18条「市町村食育推進計画」と、「狛江市第3次基本構想」に基づく計画であり、健康こまえ21、狛江市農業振興計画等関連計画などとの整合性を図り、平成23年度から平成27年度までの5年間の計画です。



狛江市食育推進計画（平成23年2月策定）より抜粋

狛江市食育推進計画の基本的な考え方

《基本理念》

「食」を大切にすることを育むまち・こまえ

「食」は生命の源であり、私たちの生活に欠かせないものでありながら、日々忙しく時間的にも精神的にもゆとりのない生活を送っていると、欠食、食事のマナーの欠如、「食」に関する感謝の心や気持ちの喪失といった「食」の大切さに対する意識の希薄化がみられがちです。

狛江の現状をみると、「食育」という言葉の認知度は国の調査と比較しても高く、「食」に対する意識の高さが窺えます。また、都心から電車で20分の位置にありながら、野川や多摩川などの自然にも恵まれ、多彩な農産物の生産があり、直売所も多いため、地産地消を推進しやすい地域となっています。

このことから、狛江市が目指す食育として、

“「食」を大切にすることを育むまち・こまえ”を掲げ、食育を推進します。

《基本方針》

基本理念の実現に向けて、以下の基本方針を設定しました。

食に関心を持ち、健全な食生活を通してからだと心の健康を目指します

「食」を大切にするには、食が生命の源であり、生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力によって支えられ、また、動植物の生命を受け継ぐことで食生活が成り立っていることを実感しなくてはならないと考えます。

「食」に対して感謝の念を持ちながら、作り過ぎ、食べ過ぎにならないように適量を楽しく摂ることを心がけ、心身ともに健康で豊かな生涯を送ることを目指します。

狛江市食育推進計画（平成23年2月策定）より抜粋

2つの基本目標を設定し、重点プロジェクトを展開していきます。

《基本目標》

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 食に関心を持ち、楽しい食事を実践する取組みをします2 食を通して人と人とのつながりが持てる仕組みをつくります |
|---|

《重点プロジェクト》

1 「一緒に体験」プロジェクト

調理や農作業など体験活動を実際に行うことで、日常の食、人、自然に対して興味を持つきっかけの推進に努めます。各事業は、食に関するあらゆるテーマをもって実施しますが、特に「バランスのとれた食事（※）」について普及啓発していきます。

※「バランスのとれた食事」とは、主食・主菜・副菜または汁物のそろった食事をいいます。

2 「狛江の食や農を知ろう」プロジェクト

市民が食や健康づくりなどに関する情報を知ることができるように、様々な機会や広報媒体を通じて情報の提供・発信に努めます。また、保育園、学校、公民館、地域活性課、清掃課、健康推進課などで行われている事業等を通して、「食育」の大切さや狛江市の食、農業、健康に関する情報を伝えていく機会を増やしていきます。

3 「狛江の食を支える」ネットワーク作り

食や健康に関するネットワークを作り、食を通して、個人やグループ、生産者、飲食店、商業関係者、農業関係者、事業所、医療機関、市（行政）などがつながり、食育の輪を広げていきます。

第2章 狛江市食育推進計画の進捗状況

3つの重点プロジェクト（計画策定後の新規事業）の進捗状況については、以下のとおりです。

1 「一緒に体験」プロジェクト

	実施状況	主管課
「親子料理教室」 幼児期・学童期の親子で調理体験	平成25年度より食育講習会「親子でクッキング」を実施 (対象：3～5歳児の親子) 【開催数】 平成25年度 1回/年、参加人数13名 平成26年度 1回/年、参加人数10名 平成27年度 1回/年、参加人数2名	健康推進課
「子ども料理教室」 対象：小学生・中学生	未実施	健康推進課
「地域へ出向いての料理教室」 町会・自治会、市民サークル、老人会などに講師を派遣	市民サークルやシルバー人材センターなどからの依頼により実施 【開催数・参加延べ人数】 平成23年度 4回/年、参加延べ人数38名 平成24年度 6回/年、参加延べ人数63名 平成25年度 5回/年、参加延べ人数68名 平成26年度 5回/年、参加延べ人数59名	健康推進課

2 「狛江の食や農を知ろう」プロジェクト

	実施状況	主管課
「狛江市農産物直売所マップ」 「狛江市民活動・生活情報誌わっこ」 地場野菜などを若い世代へ伝達伝承	「狛江市農産物直売所マップ」 ・平成19年12月に1万部発行し、配布 ・平成28年3月に「狛江市観光ガイド」の中に、直売所やレシピなどを盛り込んだ内容で3万部発行し、配布中	地域活性課
	「狛江市民活動・生活情報誌わっこ」 月1回、33,000部発行 平成25年度から平成27年度まで、計35回、「旬菜」についての記事を掲載	
	・健康推進課の事業にて「狛江市農産物直売所マップ」「狛江市民活動・生活情報誌わっこ」を周知 ・平成25年度より、「しょくいくガイド」を作成し、町会・自治会へ配布 【町会・自治会への配布数】 平成25・26年度 1,600部 平成27年度 2,728部	健康推進課

	実施状況	主管課
狛江市ホームページに レシピや食や農業や環境に関する 情報掲載	平成 25 年度から、狛江市のHP (http://www.city.komae.tokyo.jp/) に 「しょくいくガイド」を掲載	健康推進課
	こまえ子育てねっとサイト (http://komae-kosodate.net/) 「こまえパクパクぴーれ」 (http://kosodate-recipe.net/komae/) に 食育情報を掲載	子育て支援課
	平成 26 年度から、狛江市のHP (http://www.city.komae.tokyo.jp/) に GAP (Good Agricultural Practice) 手法によっ て生産された「狛江ブランド野菜」について 掲載	地域活性課
あいとぴあセンター内に 「食育情報コーナー」を設ける。 市内の食に関するイベントを開催、食 や農業や環境に関する情報発信	平成 24 年度から「食育情報コーナー」を 2 階 に常時設置	健康推進課
イベント（市民まつり、福祉まつり） に参加し、食や健康づくり情報発信	毎年 1 回あいとぴあ健康まつりに参加	健康推進課

3 「狛江の食を支える」ネットワーク作り

	実施状況	主管課
世代間交流会の開催	平成 25 年度より世代間交流会「ミンジーと一 緒にクッキング」を実施 【開催数・参加人数】 平成 25 年度 2 回/年、参加人数 31 名 平成 26 年度 2 回/年、参加人数 26 名 平成 27 年度 2 回/年、参加人数 38 名	健康推進課
食育サポーター制度の構築	未実施	健康推進課
狛江市食育推進会議（仮称）の開催	平成 27 年度より狛江市健康づくり推進協議 会にて会議を 5 回実施	健康推進課
市内栄養士連絡会の開催	平成 26 年度より「狛江市栄養士情報交換会」 を実施 【開催数・参加人数】 平成 26 年度 1 回/年、参加人数 11 名 (市立保育園 4 園、私立保育園 3 園、市立小 学校 2 校、健康推進課 2 名)	健康推進課
	平成 27 年度 1 回/年、参加人数 15 名 (市立保育園 6 園、私立保育園 4 園、市立小 学校 3 校、市立中学校給食センター 1 名、健 康推進課 1 名)	

第3章 狛江市食育推進計画の評価

1 評価の目的

狛江市食育推進計画は、平成23年度から平成27年度までの5年間の計画であり、目標の達成度を見える化するために指標型目標として「食育推進の目標値」を5項目設定しています。計画策定時（平成21年度）と現状（平成27年度）との比較を行うため、食育推進の目標値にかかわる部分のアンケート調査を行って評価し、狛江市食育推進計画（第2次）に反映させていきます。

2 食育推進の達成状況

狛江市食育推進計画の「食育推進の目標値」を評価基準に従って4段階で評価しました。評価区分と評価基準は、以下のとおりです。

(1) 評価区分と評価基準

評価区分		評価基準
A	達成	直近値が目標値を達成している
B	改善傾向	直近値が目標値には達成していないものの、基準値と比較すると改善傾向である
C	横ばい	直近値が基準値に比べ、ほぼ横ばい (基準値と直近値を比較し、基準値より±5%以内の値に関しては、横ばいとする。)
D	悪化	直近値が基準値より悪化している

基準値：平成21年度「狛江市食育アンケート調査」、「狛江市立小学校の食育アンケート調査」、
「狛江市立中学校の食育アンケート調査」

直近値：平成27年度「狛江市食育アンケート調査」、「狛江市立小学校の食育アンケート調査」、
「狛江市立中学校の食育アンケート調査」

(2) 「食育推進の目標値」の達成状況は、以下のとおりです。

指標	平成21年度 基準値	平成27年度 目標値	平成27年度 直近値	達成 状況	参照
①朝食の欠食率 小学生 中学生 20～65歳	0.6% 2.4% 6.5%	0%に 近づける	0.0% 1.4% 7.4%	A B C	図1
②主食・主菜・副菜または汁物のそろった朝食 を食べる人 (小学生、中学生、15～65歳の総計)	30.5%	50%以上	28.3%	C	図3
③食べ残しや食品の廃棄が発生していること について、「もったいない」と考えている人 (中学生、15～65歳の総計)	59.1%	80%以上	55.8%	C	図4
④食育の日の認知度 「知っている」＋「聞いたことがある」人 (中学生、15～65歳の総計)	13.1%	50%以上	17.8%	C	図6
⑤狛江市の特産物の認知度 狛江市の特産物が枝豆であることを 「知っている」＋「聞いたことがある」人 (中学生、15～65歳の総計)	66.3%	80%以上	79.0%	B	図7

<平成27年度目標値の設定理由>

- ① 朝食の欠食率の目標値は、国や都の目標値を鑑みて設定。平成21年度の食育アンケート調査では、15～19歳の回答数が22人と少なかったため指標から除外し、20～65歳の総計で指標を設定（図2）。
- ② 主食・主菜・副菜または汁物のそろった朝食の摂取割合は、平成21年度では中学生が48.0%とどの世代よりも多く、このレベルを目指した目標値を50%以上に設定（図3）。
- ③ 食べ残しや食品の廃棄について、「もったいない」と考えている中学生は平成21年度では36.0%、15～65歳は71.8%であり、15～65歳とほぼ同様のレベルを目指した目標値80%以上に設定（図4）。
- ④ 「食育」という言葉を「知っている」人は、平成21年度は中学生と15～65歳との総計51.9%であり、そのレベルまで増やすため目標値を50%以上に設定（図5）。
- ⑤ 特産物の認知度は、平成21年度は中学生82.6%、15～65歳57.5%であり、中学生の認知度とほぼ同様のレベルを目指すため目標値を80%以上に設定（図7）。

(3) 「食育推進の目標値」に関する調査結果

グラフ中のn数は、回答者数を表し、回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

平成27年度食育アンケート調査結果の詳細については、P17～P35に掲載しています。

①朝食について

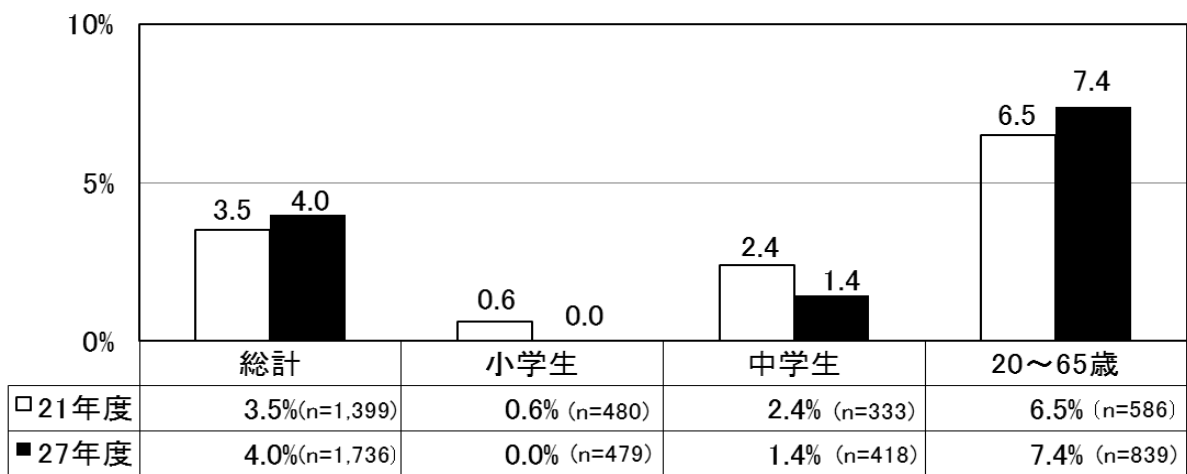


図1 朝食を食べていない人の割合（朝食の欠食率）

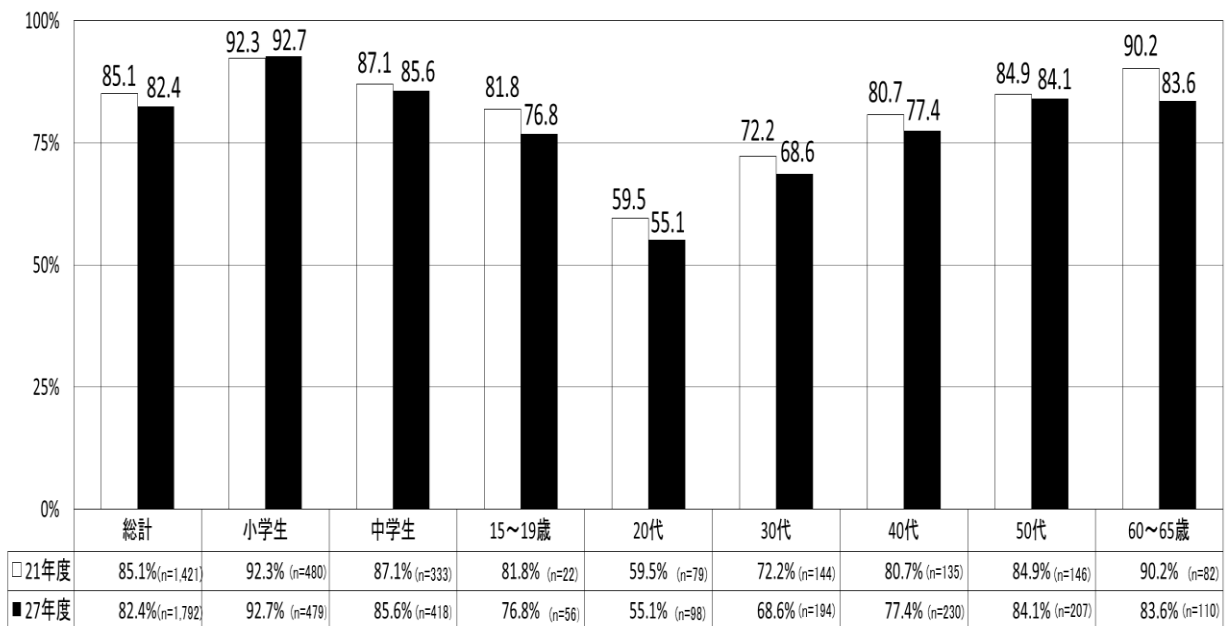


図2 毎日朝食を食べる人の割合

平成27年度における狛江市の調査では、朝食を食べないと答えた人は総計で4.0%であり、平成21年度とほぼ変わらない状況ですが、小学生では0%、中学生では1.4%と欠食率が低下しています（図1）。

平成27年12月に開催された国の食育推進評価専門委員会の資料によると、平成27年度の内閣府の調査において、朝食を「全く食べていない」及び「あまり食べていない」小学6年生は4.4%です。平成27年度の狛江市の調査においては、朝食を「食べない」及び「週に1～3日食べる」小学5年生は2.9%であり、欠食している割合は低い状態にあります。

これらは、平成24年度に東京都教育委員会より狛江市が「食育研究指定地区」に指定され、和泉小学校に栄養教諭が配置されたり、保護者や地域の方などをゲストティーチャーとして招いた授業・学校試食会・親子料理教室などを実施したり、食の指導の授業公開を保護者や地域に行った結果、食に対する関心が高くなり、欠食率の低下に繋がったものと考えられます。

しかしながら、平成27年度の狛江市食育アンケート調査において、朝食を毎日食べる人は総計で82.4%でした（図2）。平成21年度と比較すると小学生を除くすべての世代で毎日食べていない人の割合が高く、特に20代・30代の若い世代が毎日食べていない人の割合が増加しています（図2）。

平成27年度の内閣府の調査においても朝食を「週に2～3日食べる」及び「ほとんど食べない」と回答した20代・30代は、男女あわせて24.8%であり、全世代と比べると食べていない割合は高く、狛江市も同様の状況にあります（図2）。

②朝食の内容について

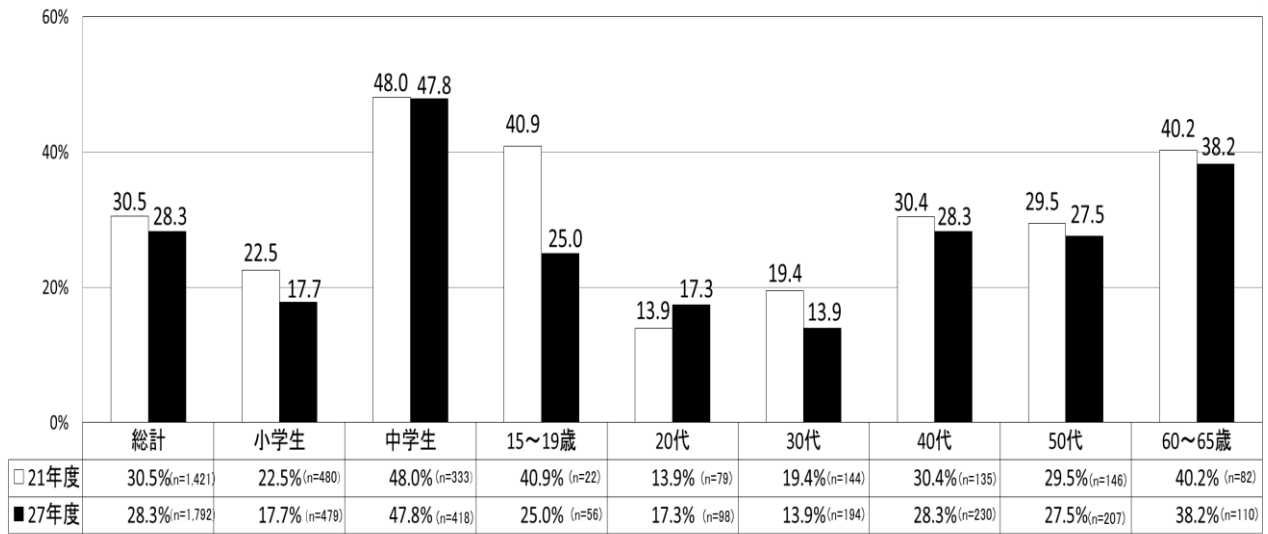


図3 主食・主菜・副菜または汁物のそろった朝食の摂取割合

「主食・主菜・副菜または汁物」のそろった朝食を取っている人は総計で平成21年度30.5%、平成27年度は28.3%となっており、特に小学生・15~19歳・30代が平成21年度に比べて低くなっています（図3）。

③「もったいない」という意識について

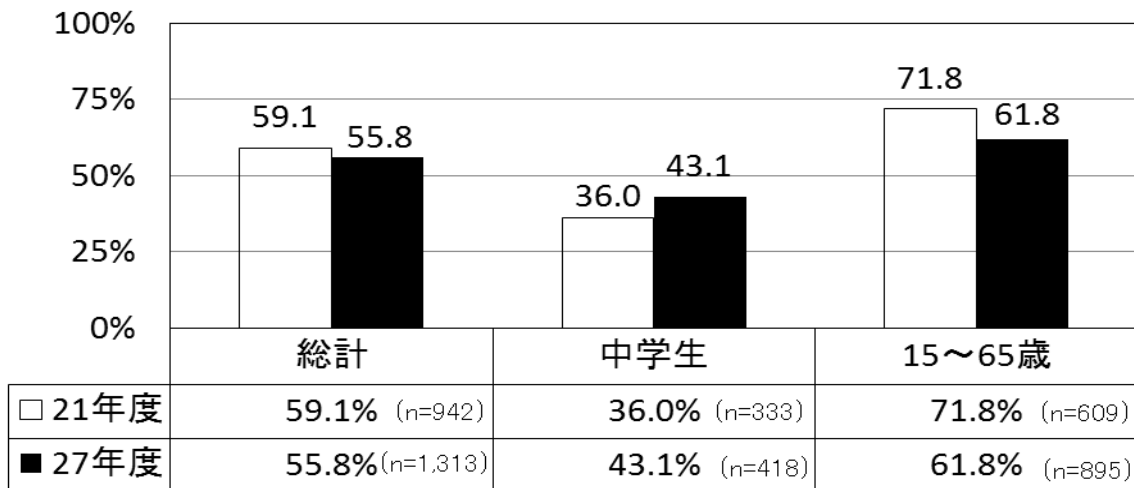


図4 食べ残しや食品の廃棄が発生していることについて、「もったいない」と考えている人の割合

食べ残しや食品の廃棄が発生していることについて、「もったいない」と考えている人は、平成27年度調査では中学生43.1%であり、平成21年度に比べて増えていますが、15~65歳では61.8%と、平成21年度と比べると約10%低くなっています（図4）。

④食育の日の認知度について

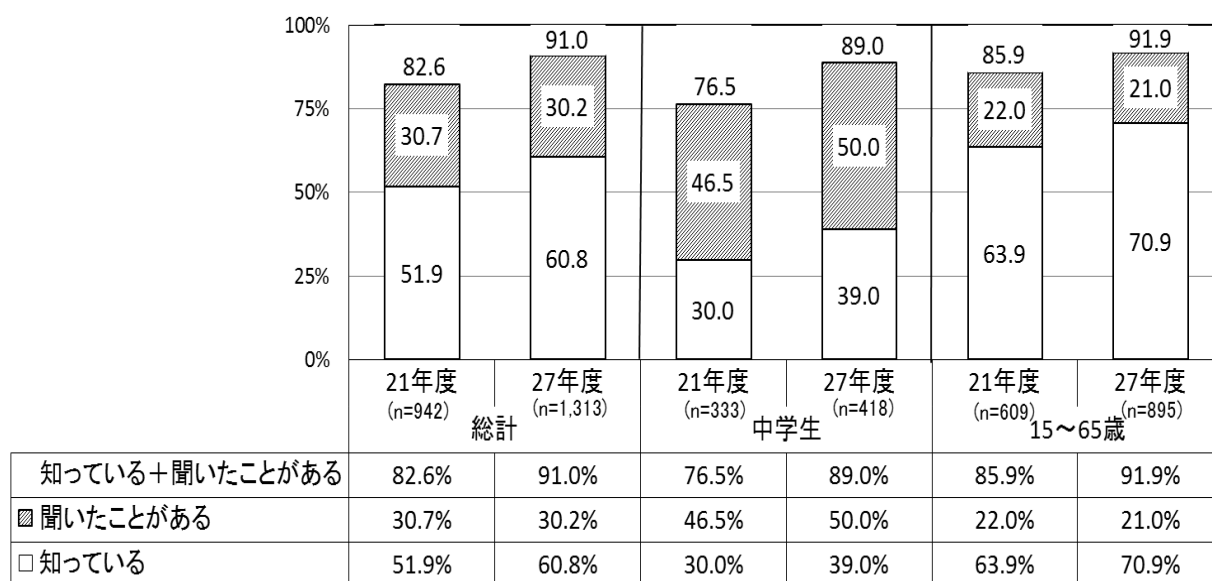


図5 「食育」という言葉の認知度

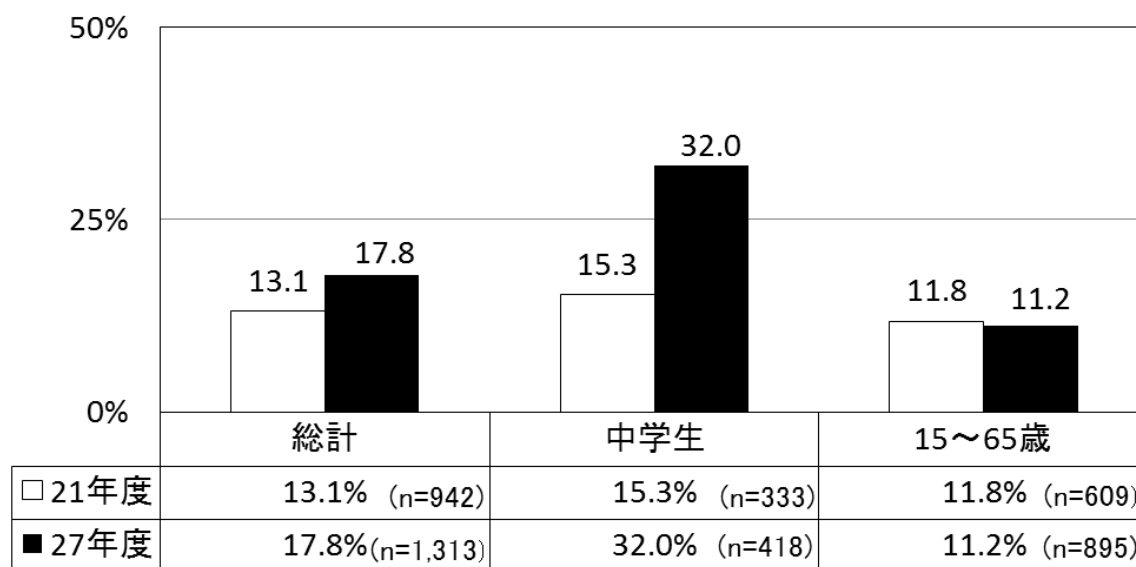


図6 「食育の日」の認知度 「知っている」+「聞いたことがある」人の割合

「食育」という言葉を「知っている」及び「聞いたことはある」中学生と15～65歳の総計で平成27年度は91.0%となっており、認知度は高い状況にあります（図5）。

しかしながら、「食育の日」の認知度の総計は17.8%であり、平成21年度に比べると若干認知度は上がりましたが、極めて低い状況です（図6）。

市では、事業名に「食育」を付け、「食育講演会」「食育講習会」「食育料理教室」として事業を開催しています。また、「しょくいくガイド」を食育庁内連絡会で作成して、平成25年度から

自治会などへ配布するとともに、狛江市ホームページに掲載してきました。さらに、「食育の日」ののぼり旗を作成して小・中学校、農産物直売所などに設置したり、平成24年度からは懸垂幕を作成してあいとぴあセンターや市役所に掲示して、「食育」「食育の日」「食育月間」の認知度を上げるように活動してきました。中学生の「食育の日」の認知度が、平成21年度の15.3%から平成27年度の32.0%へと高くなったことは、一定の効果があったことを示しています(図6)。

⑤狛江市の特産物の認知度について

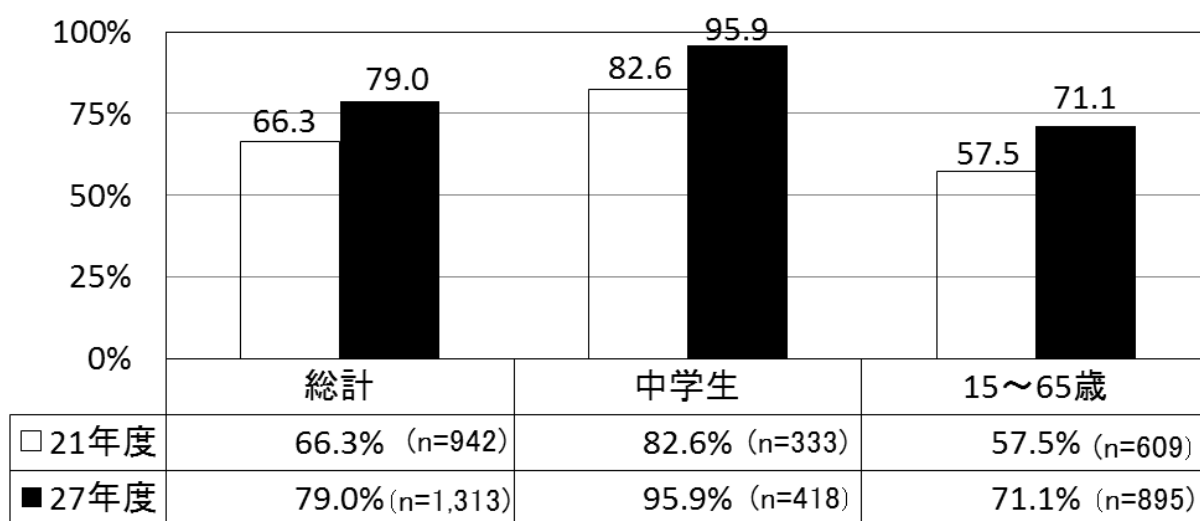


図7 狛江市の特産物が枝豆であることを「知っている」+「聞いたことはある」人の割合

市の特産物である枝豆についての認知度は、成人全体より中学生の方が高く、狛江の小学校に通っていた子どもたちは枝豆の授業や給食を通して知っている人が多いものと考えられます。狛江の子育て情報を発信する「こまえ子育てねっと」のキャラクターとして狛江の名産枝豆から生まれた「えだまめ王子」があり、6～7月に開催する食育講演会や食育料理教室では、啓発物品として狛江産枝豆を配布して特産物の普及を図って参りました。また、狛江市の枝豆を使った枝豆アイスこと「狛江えだまめ紀行」は小学校や中学校給食にも登場し、狛江市観光協会推奨品にはえだまめ羊羹や枝豆を使った発泡酒「こまえーる」といった商品もあり、より特産物を知り得る状況になってきており、15～65歳でも特産物の認知度は上がってきています(図7)。

3 狛江市食育推進計画の評価

平成27年度の食育アンケート調査によると、食育推進の目標値が「達成」された項目は『朝食の欠食率（小学生）』でした。「改善傾向」の項目は、『朝食の欠食率（中学生）』、『狛江市の特産物の認知度』でした。『朝食の欠食率（20～65歳）』、『主食・主菜・副菜または汁物のそろった朝食を食べる人』、『食べ残しや食品の廃棄が発生していることについて、「もったいない」と考えている人』、『食育の日の認知度』などの項目については、目標値は「横ばい」となっています。

食に関心を持ち、楽しい食事を実践するためには、乳幼児期からあらゆる世代の人が、食に関して「見る、聴く、触れる、感じる、味わう」といったことを行うことが大切です。また、特に食に関心の高い、妊娠期や乳児期の保護者へのアプローチが効果的であると考え、平成25年度からは食育料理教室「プレパパ・プレママクッキング」、離乳食教室「Step2・3」、世代間交流会「ミンジーと一緒にクッキング」を立ち上げました。参加者数が少なかった事業に関しては、対象や内容を随時見直してきました。

狛江市の食育事業の実績をみると、平成24年度は開催回数174回、参加者延べ人数3,255人、平成25年度は、開催回数207回、参加者延べ人数4,138人、平成26年度は、開催回数220回、参加者延べ人数4,756人と開催回数や参加者延べ人数も増加しており、新規事業も増えていきます（P36 資料2）。

平成26年からはGAP（Good Agricultural Practice）手法によって生産された「狛江ブランド野菜」の出荷も始まり、安心・安全でおいしい野菜が身近にあり、より地産地消を推進しやすくなってきました。

新規事業の立ち上げ、既存事業の内容の見直しによる参加者数の増加、開催回数の増加により、食に関心を持つ機会は増加していると考えられます。しかしながら、これらの事業が食育推進の目標値の向上に繋がっていない点もあり、食育事業に参加している人に対して、朝食内容や食を大切にするような働きかけが必要です。また、食育事業に参加できない人、関心のない人にも、食育事業以外のあらゆる機会を捉えて食に関心を持つきっかけ作りが不可欠となっ

てきます。

国は、平成28年3月には「第3次食育推進基本計画」を策定したので、その動向を見ながら、
狛江市では「健康づくり推進協議会」に諮って平成28年度に食育アンケート調査を実施し、施
策の方向や重点プロジェクト、食育推進の目標値の見直しを諮り、狛江市食育推進計画（第2
次）を策定、実施していきます。

資料1 平成27年度食育アンケート調査結果

平成27年度の食育に関する現状を把握するため、「狛江市食育推進計画（第1次）評価に関するアンケート調査」「狛江市立小学校の食育アンケート調査」「狛江市立中学校の食育アンケート調査」を実施いたしました。

1 狛江市食育推進計画（第1次）評価に関するアンケート調査

15歳～65歳の市民2,000名を対象に層化抽出により平成27年11月に実施し、有効回答数は895名（回答率44.8%）でした（図8参照）。

対象	配布数（名）			回答数（回答率）		
	男	女	総計	男	女	総計
15～19歳	63	63	126	29名(46.0%)	27名(42.9%)	56名(44.4%)
20～29歳	177	177	354	38名(21.5%)	60名(33.9%)	98名(27.7%)
30～39歳	227	227	454	84名(37.0%)	110名(48.5%)	194名(42.7%)
40～49歳	251	251	502	83名(33.1%)	147名(58.6%)	230名(45.8%)
50～59歳	184	184	368	78名(42.4%)	129名(70.1%)	207名(56.2%)
60～65歳	98	98	196	45名(45.9%)	65名(66.3%)	110名(56.1%)
合計	1,000	1,000	2,000	357名(35.7%)	538名(53.8%)	895名(44.8%)

図8 配布・回答状況

2 狛江市立小学校の食育アンケート調査

狛江市立小学校6校4年生499名を対象に、平成27年9月に実施し、有効回答数は480名（回答率96.2%）でした。

3 狛江市立中学校の食育アンケート調査

狛江市立中学校4校2年生444名を対象に、平成27年9月に実施し、有効回答数は419名（回答率94.3%）でした。

食育アンケート調査票については、P33～P35に掲載しています。

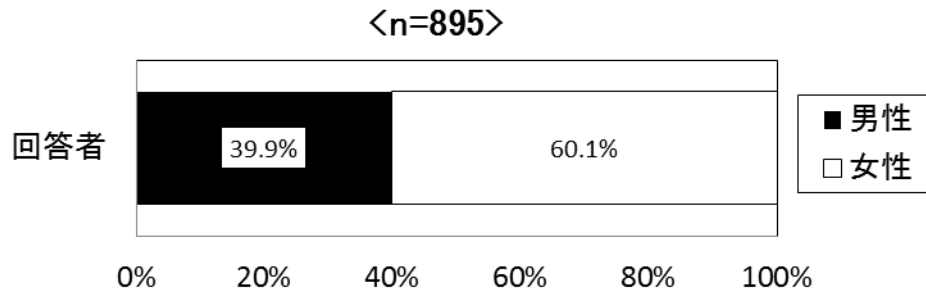
食育アンケート調査の結果をまとめると次のとおりです。

<15歳～65歳の市民>

1 回答者について

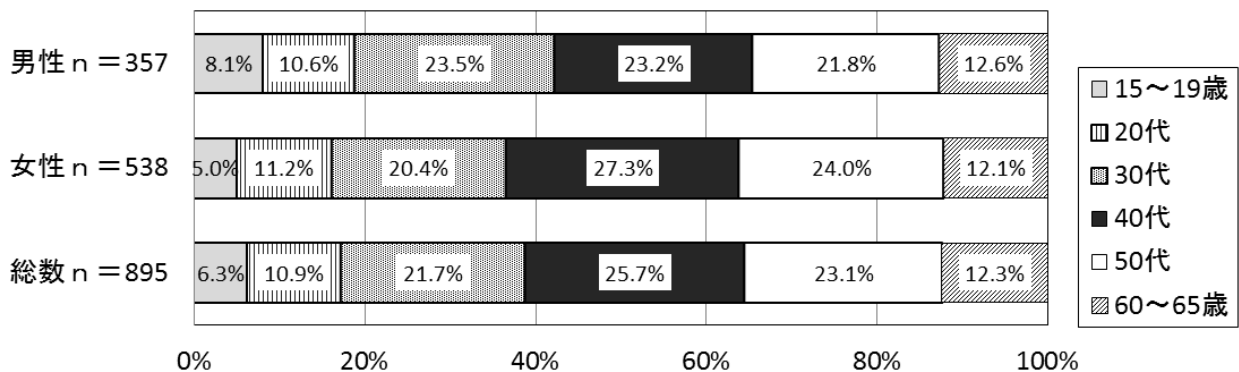
(1) 性別

回答者の性別は、女性が60.1%と多く、女性の関心の高さが窺えます。



(2) 年齢構成

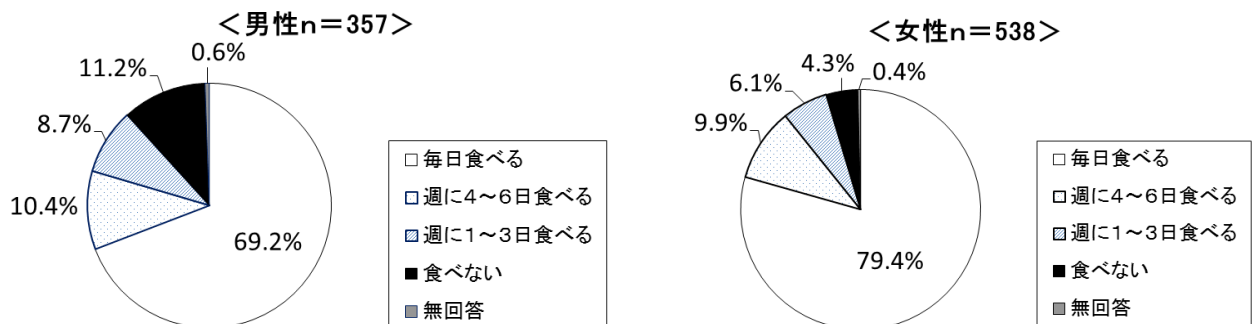
回答者の年齢構成は「30代」「40代」「50代」がやや多くなっています。



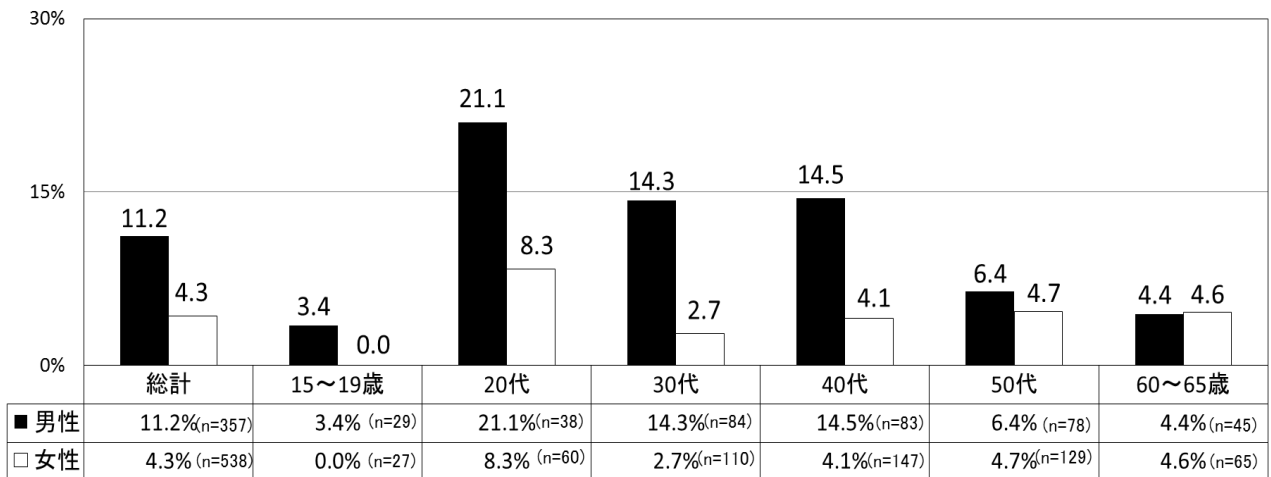
2 食生活について

(1) 朝食摂取状況

朝食を食べない人の割合は、男性11.2%・女性4.3%であり、20代の欠食率が高くなっています。



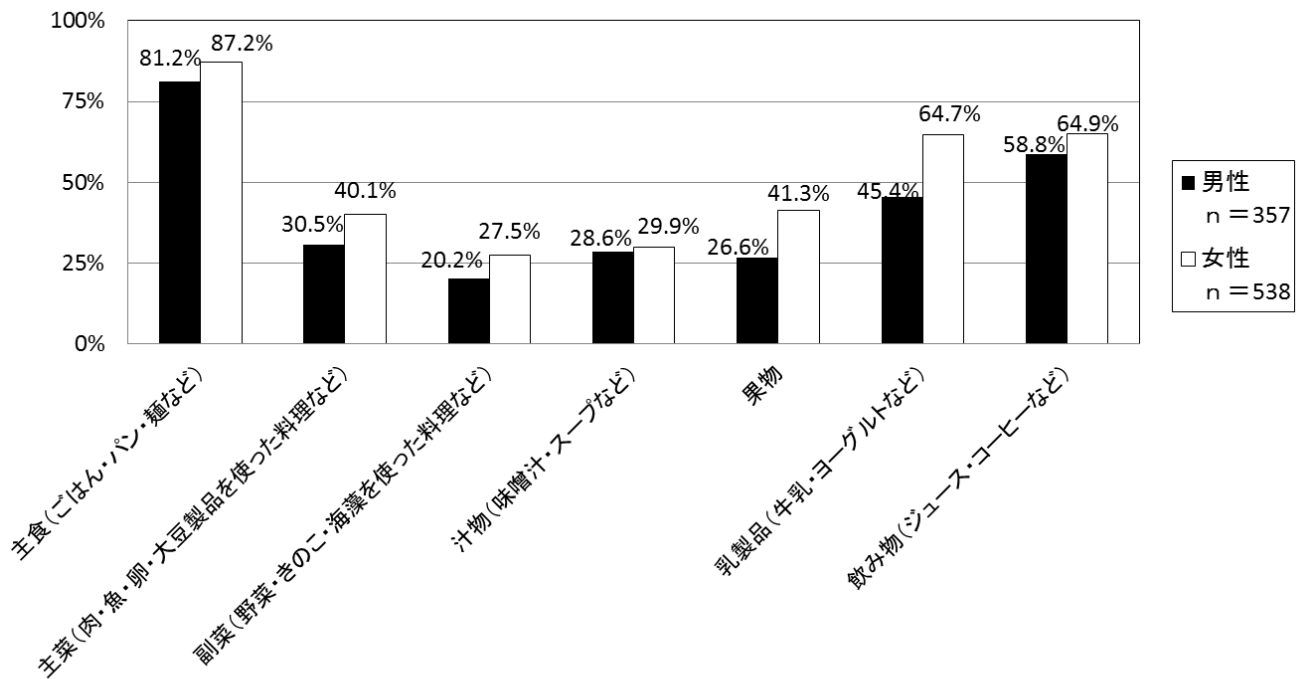
(2) 年代別朝食欠食率



(3) 食事内容

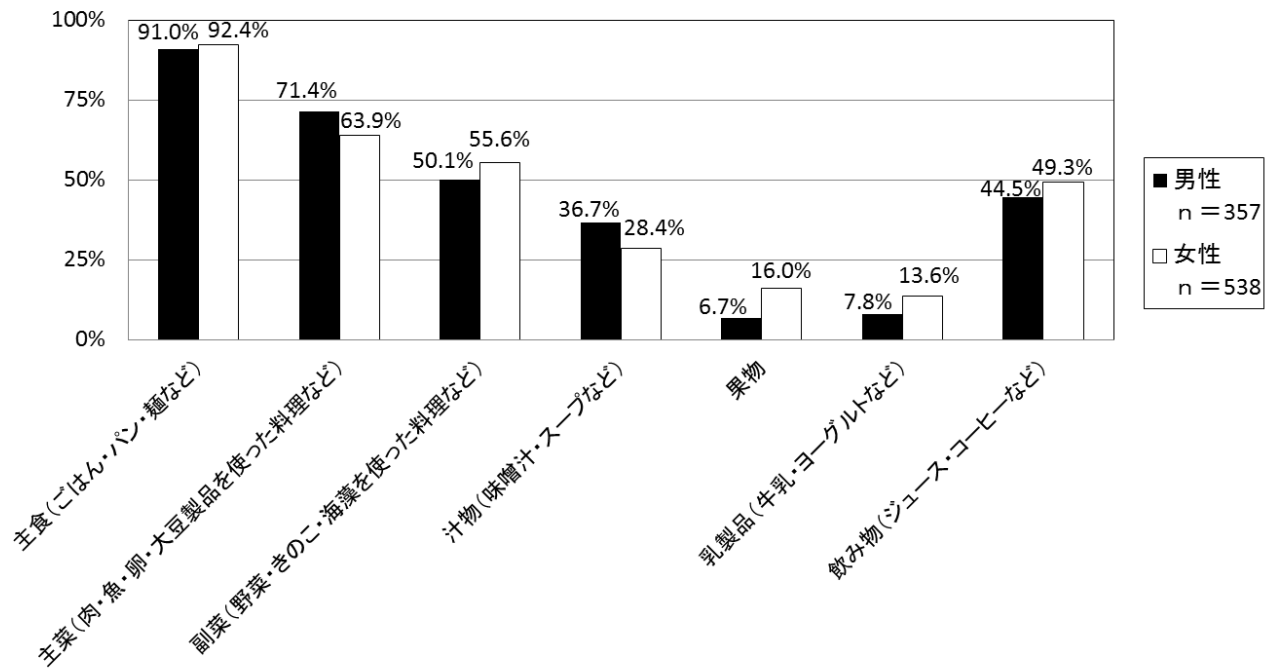
朝食の内容は、男女ともに、主食、飲み物、乳製品を摂取している人が多くいます。

<朝食>



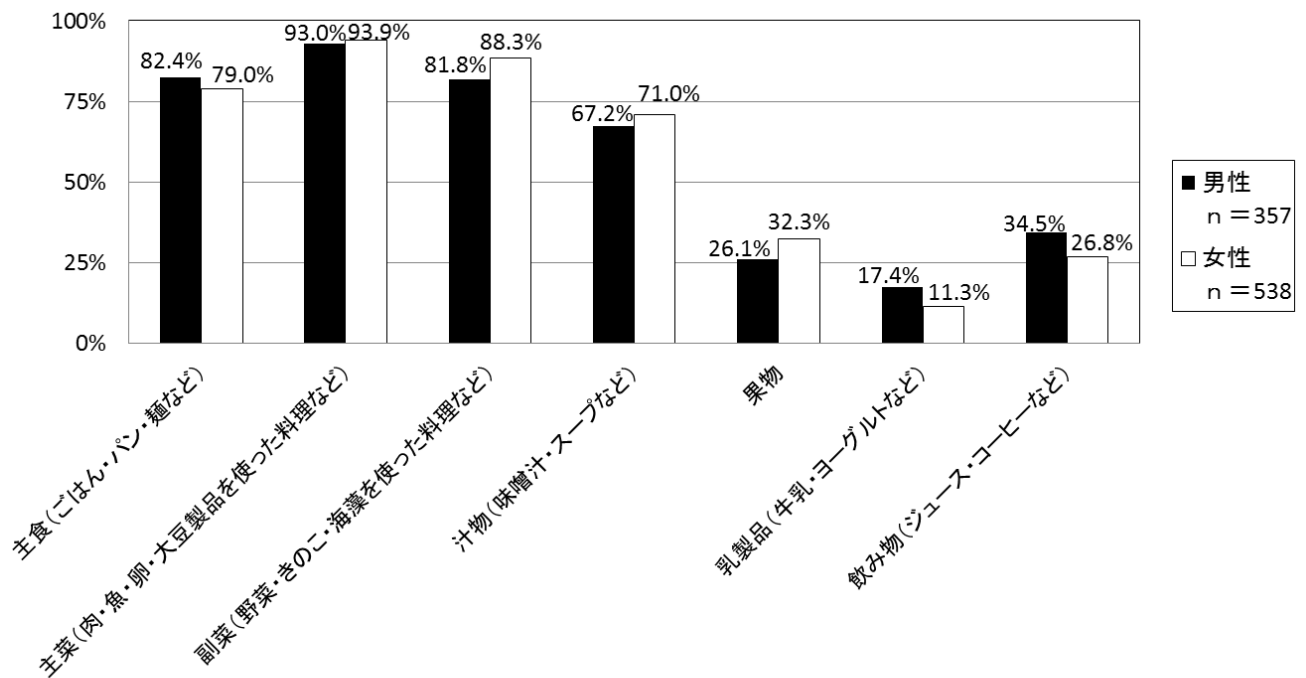
昼食の内容は、男女ともに、主食、主菜、副菜を摂取している人が多くいます。

<昼食>



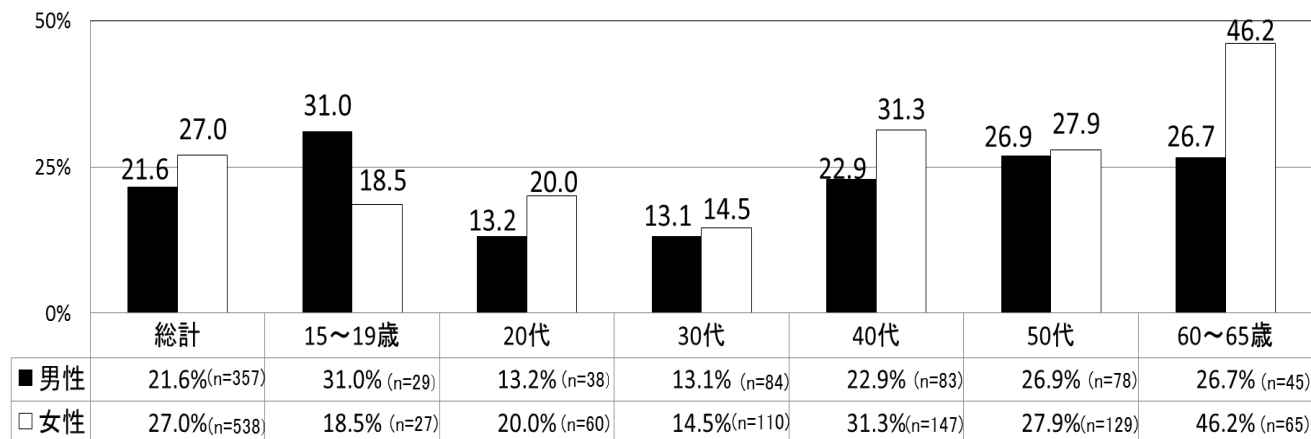
夕食の内容は、男女ともに、主菜、主食、副菜を摂取している人が多くいます。

<夕食>

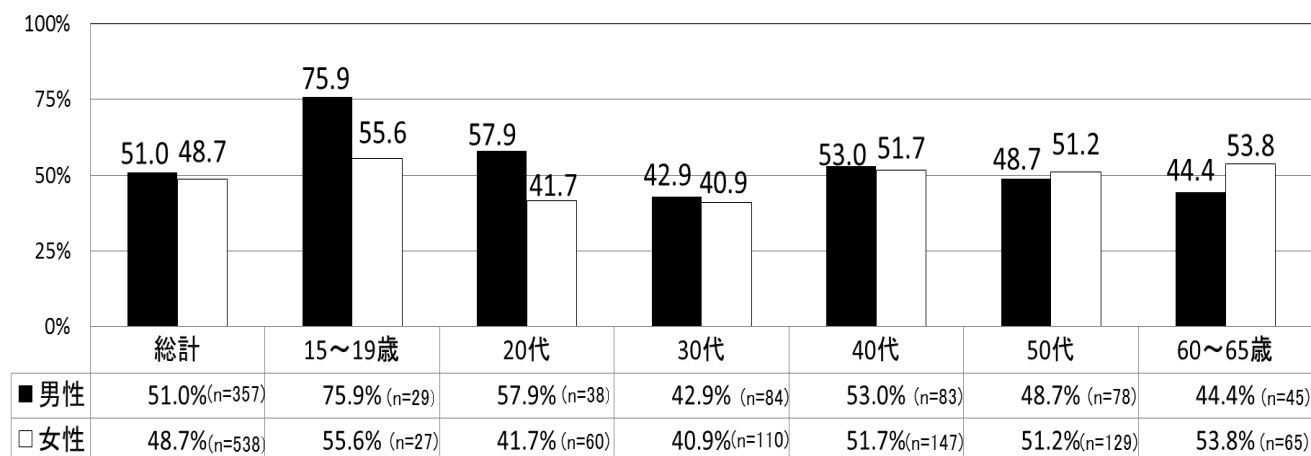


「主食・主菜・副菜または汁物」のそろった「朝食」をとっている男性は21.6%、女性は27.0%、「昼食」をとっている男性は51.0%、女性は48.7%、「夕食」をとっている男性は72.0%、女性は74.5%となっています。

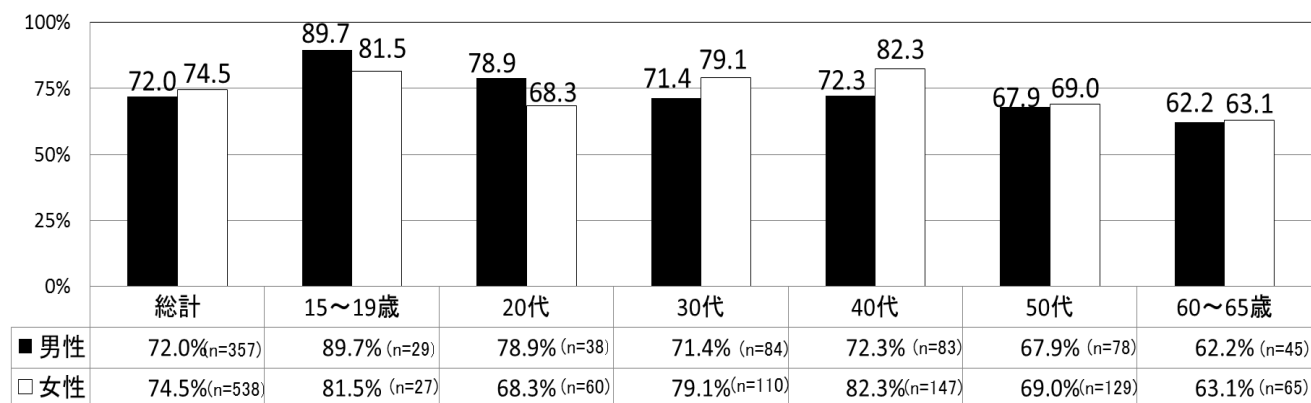
＜主食・主菜・副菜または汁物のそろった朝食の摂取割合＞



＜主食・主菜・副菜または汁物のそろった昼食の摂取割合＞

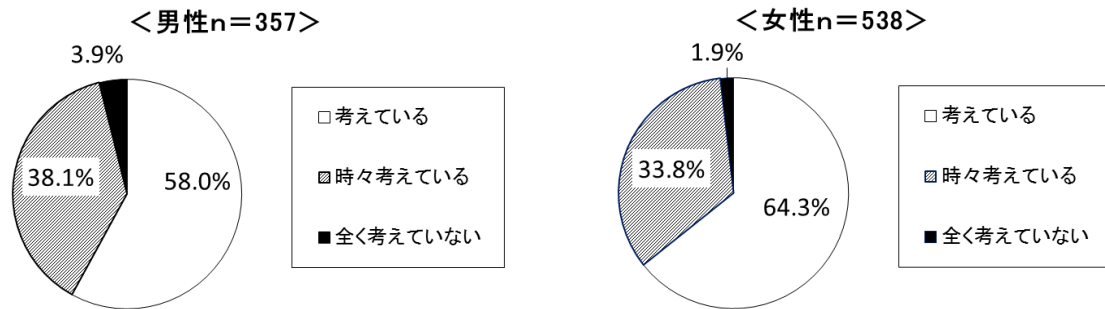


＜主食・主菜・副菜または汁物のそろった夕食の摂取割合＞



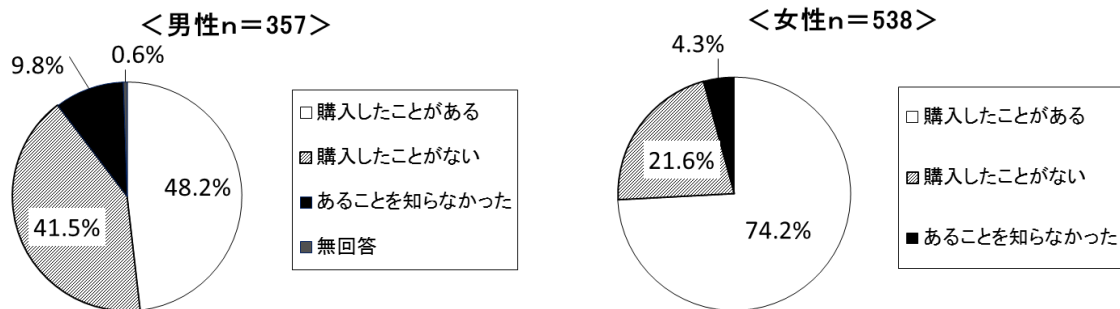
(4) 食べ残しや食品の廃棄が発生していることについて

食べ残しや食品の廃棄が発生していることについて、もったいないと「考えている」男性は58.0%、女性は64.3%となっています。



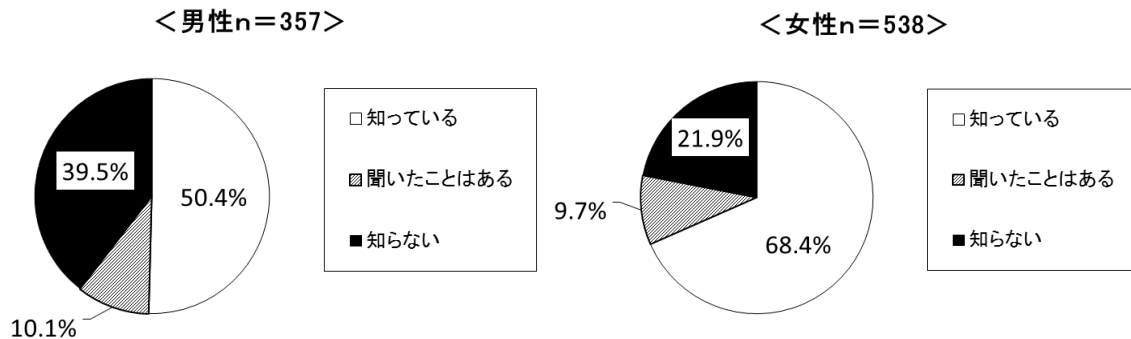
(5) 市内農産物の購入

市内の農産物を「購入したことがある」男性は48.2%、女性は74.2%となっており、女性の方が購入したことがある人の割合が高くなっています。



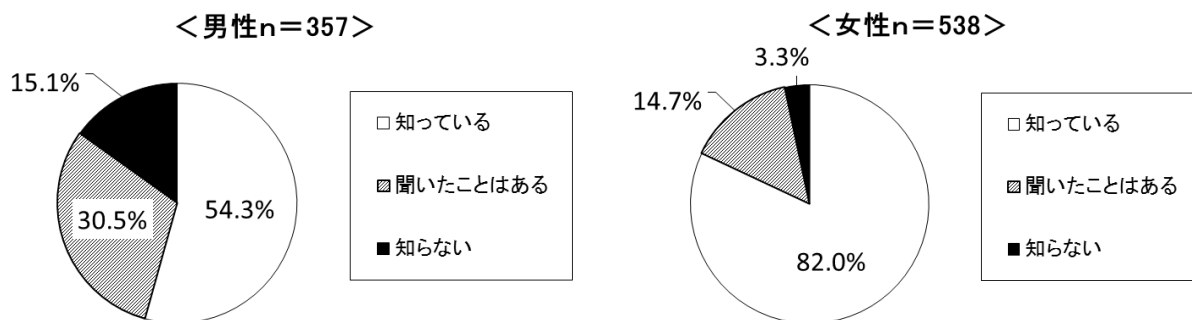
(6) 狛江市の特産物の認知度

狛江市の特産品が枝豆であることを「知っている」「聞いたことはある」男性は60.5%、女性は78.1%となっており、女性の認知度は高くなっています。



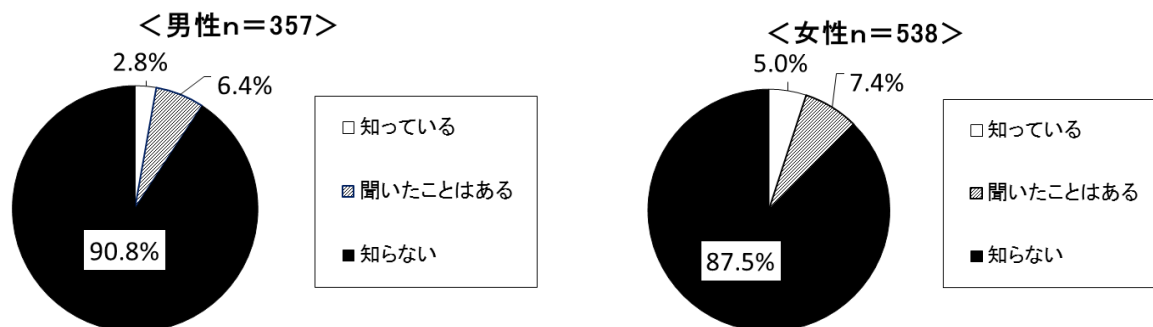
(7) 食育という言葉の認知度

食育という言葉を「知っている」「聞いたことはある」男性は84.8%、女性は96.7%となっています。



(8) 「食育の日」の認知度

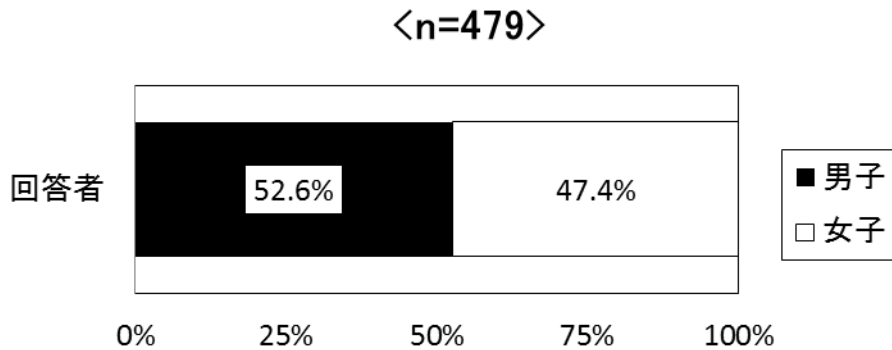
食育の日を「知っている」「聞いたことはある」男性は9.2%、女性は12.4%と認知度は極めて低くなっています。



<小学生>

1 回答者について

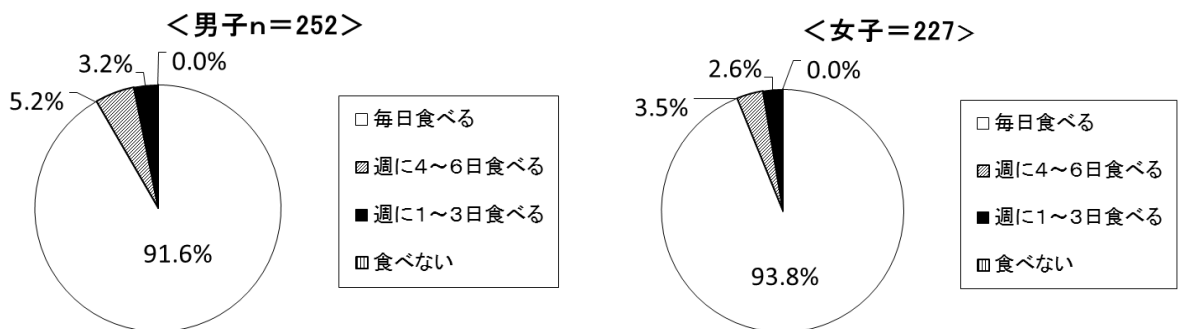
(1) 性別



2 食生活について

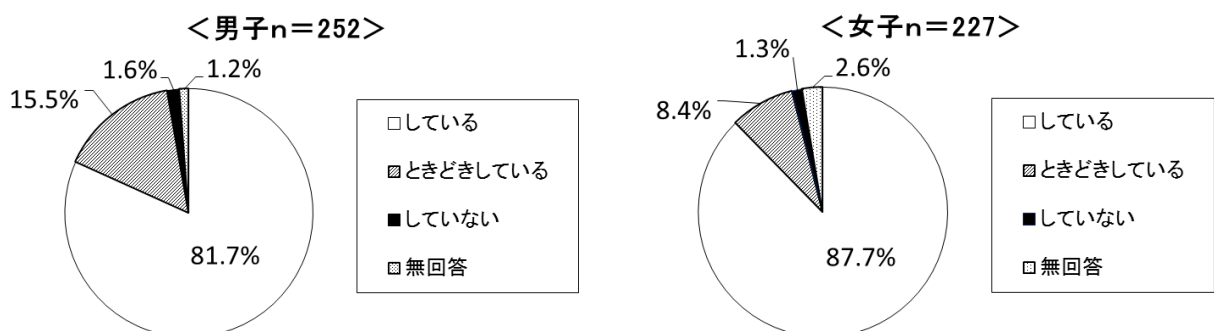
(1) 朝食の摂取状況

朝食を毎日食べる人の割合は、男子 91.6%・女子 93.8%とほとんどの人が毎日食べていますが、男子 8.5%・女子 6.1%の人が食べない日もあるようです。



(2) 食事のあいさつ（「いただきます」・「ごちそうさま」）

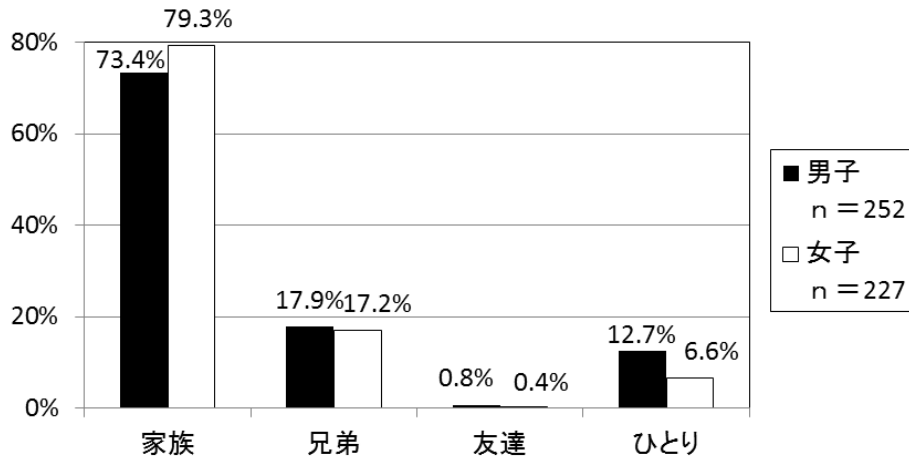
男子 81.7%・女子 87.7%の人があいさつをして食べていました。



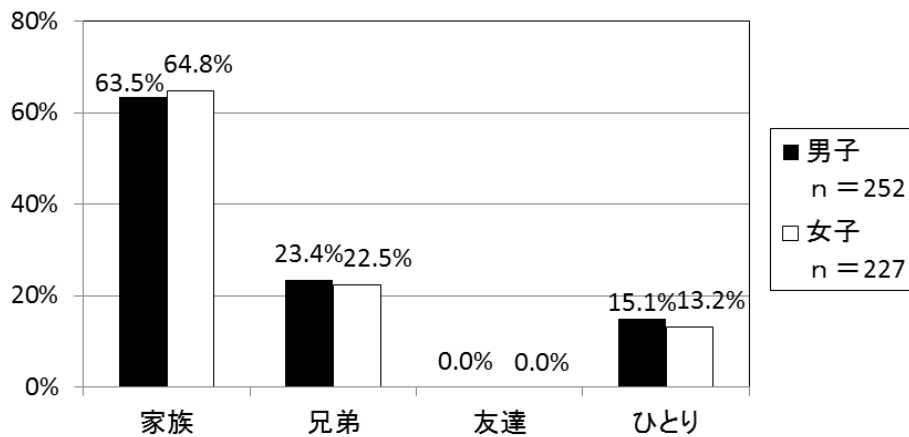
(3) 食事を一緒に食べる人について

男子・女子ともに「家族」と一緒に朝食を食べている人が最も多く、次いで「兄弟」「ひとり」で食べていました。

<日曜日の朝食（複数回答）>

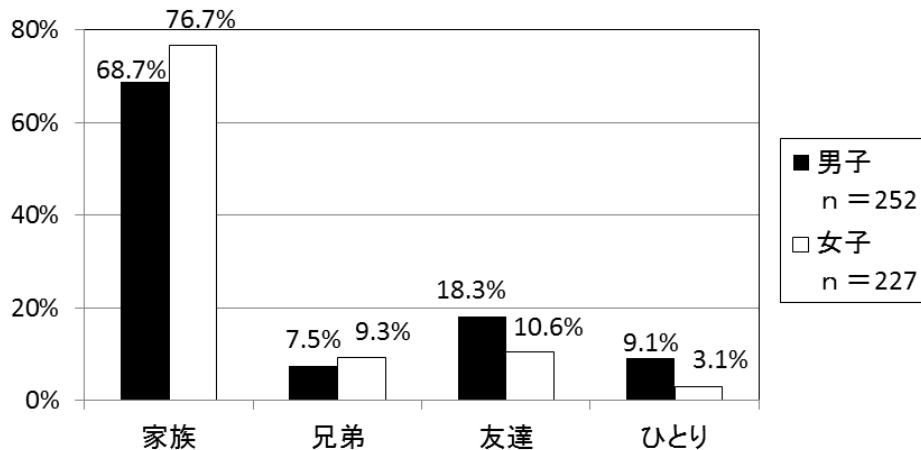


<月曜日の朝食（複数回答）>

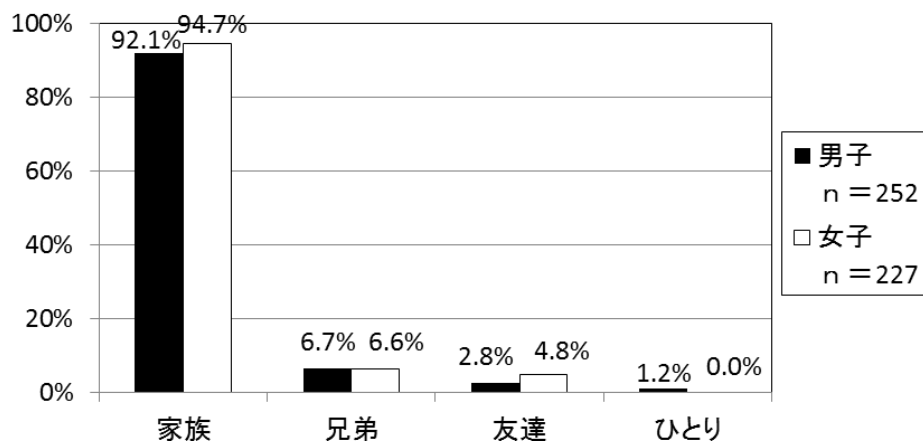


男子・女子ともに「家族」と一緒に昼食を食べている人が最も多く、次いで「友達」「ひとり」で食べていました。

<日曜日の昼食（複数回答）>



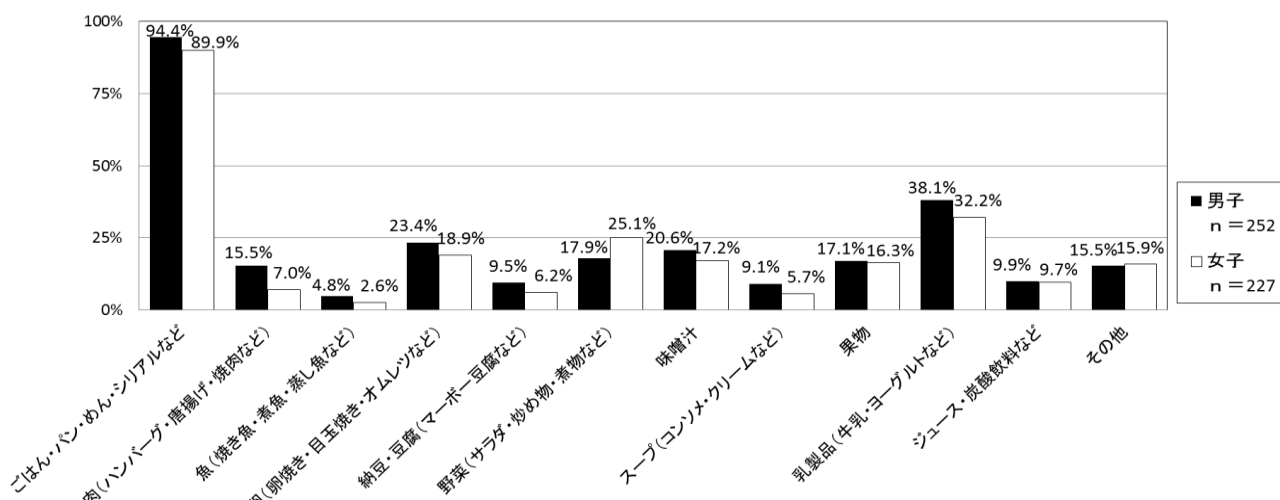
男子 92.1%・女子 94.7%が「家族」と一緒に夕食を食べていました。
 <日曜日の夕食（複数回答）>



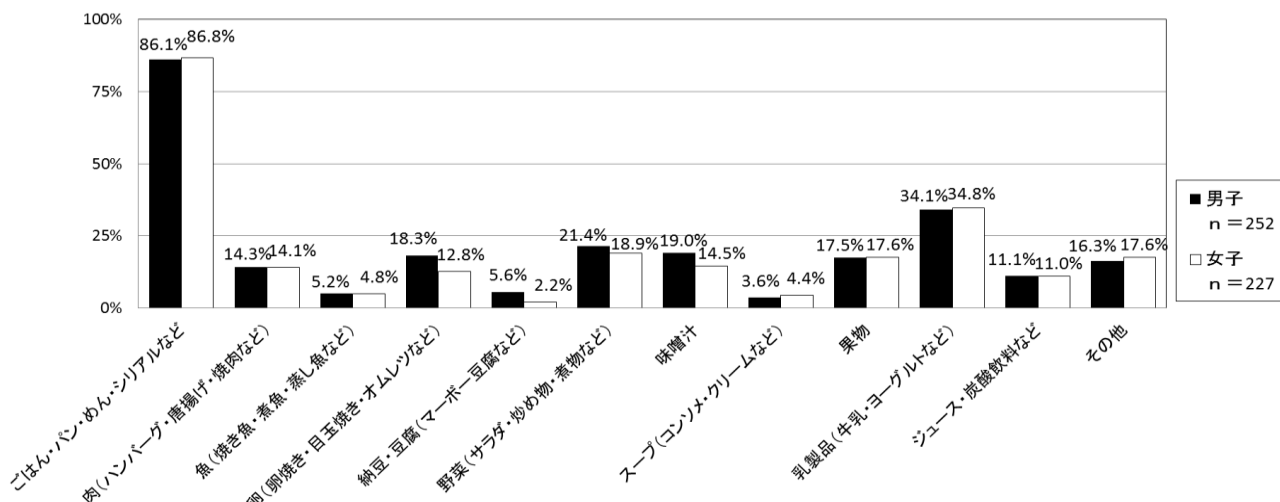
(4) 食事内容

朝食の内容は、2日間、男子・女子ともに主食、乳製品を摂取している人が多くいました。

<日曜日の朝食>

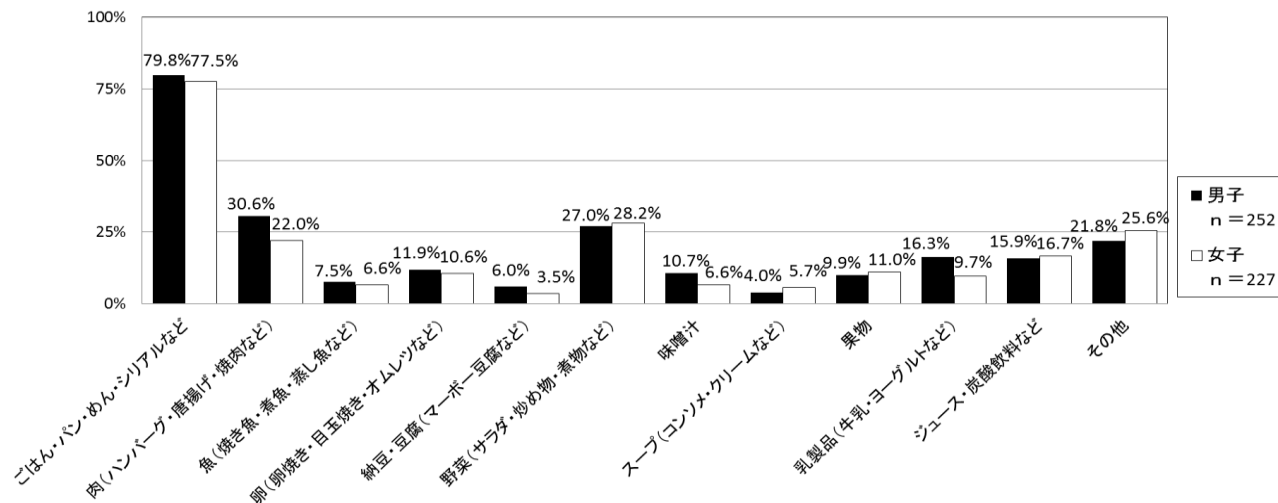


<月曜日の朝食>



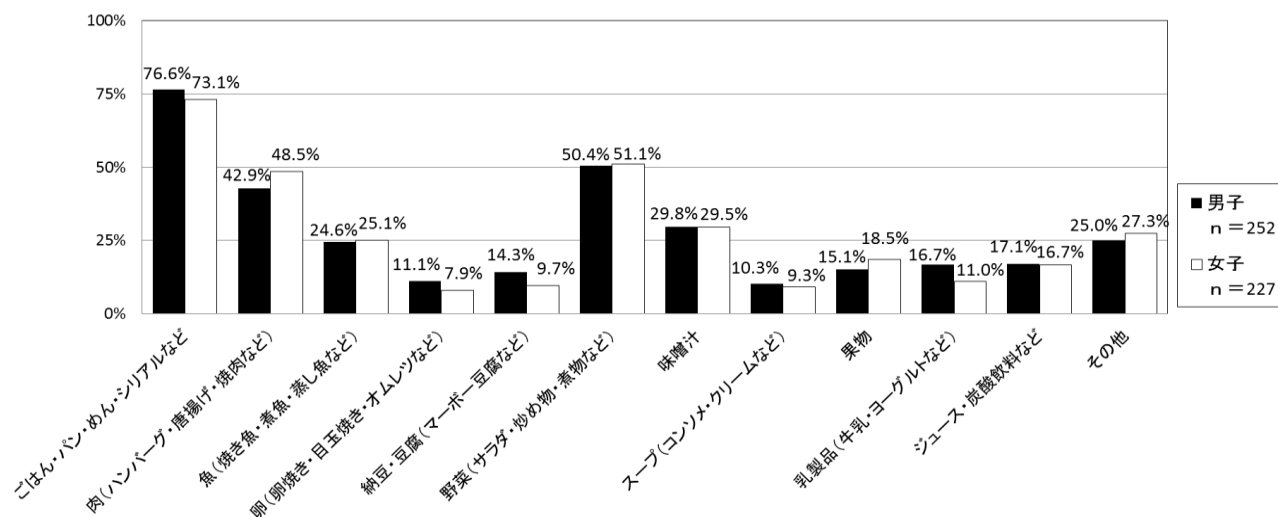
昼食の内容は、男子は、主食、肉、野菜、女子は主食、乳製品、野菜の順に多く摂取していました。

＜日曜日の昼食＞

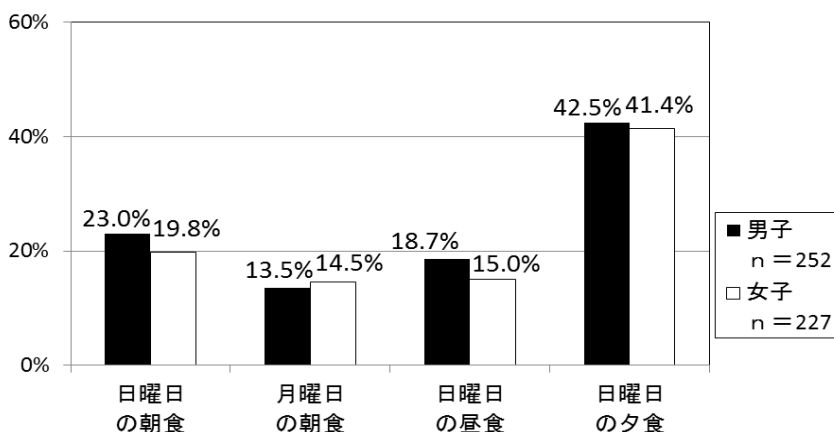


夕食の内容は、男子・女子ともに、主食、野菜、肉の順に多く摂取していました。

＜日曜日の夕食＞



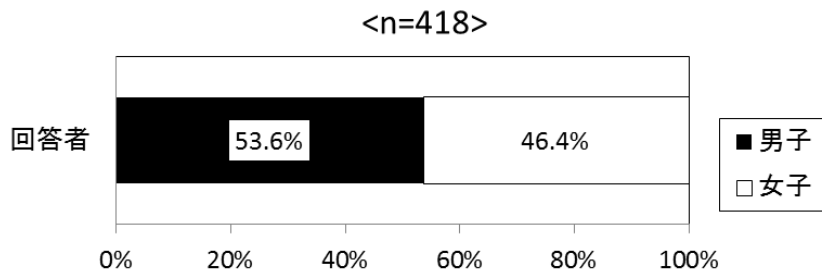
「主食＋主菜＋副菜または汁物」のそろった「朝食」をとっている男子は 18.3%・女子は 17.2% (2日間の平均)、「夕食」をとっている男子は 42.5%・女子は 41.4%となっています。



<中学生>

1 回答者について

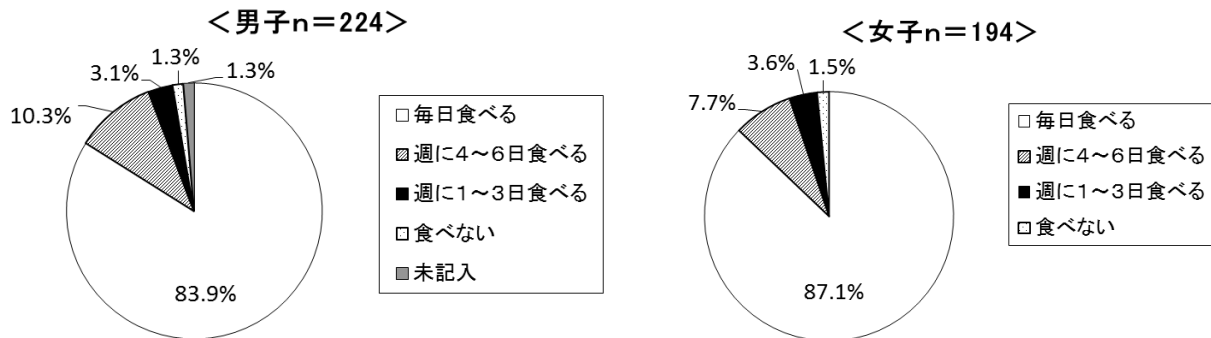
(1) 性別



2 食生活について

(1) 朝食の摂取状況

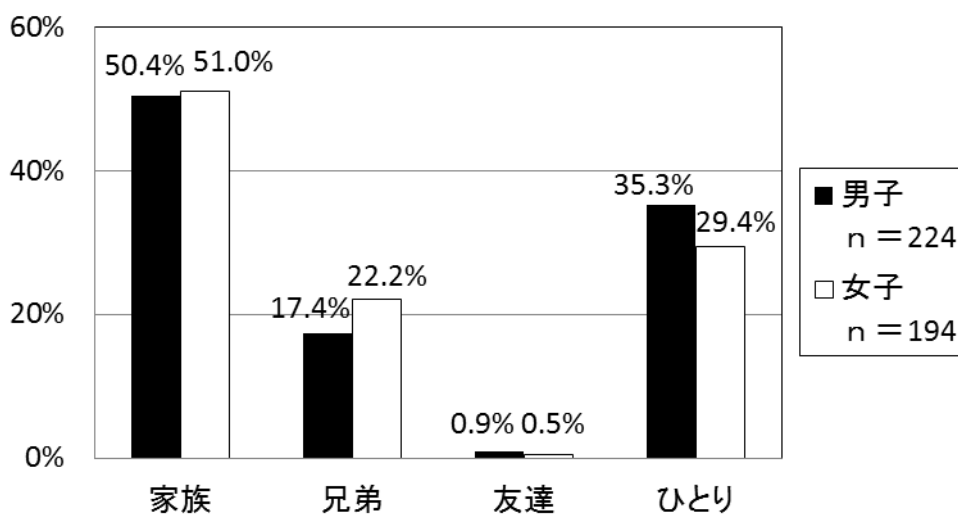
朝食を毎日食べる人の割合は、男子 83.9%・女子 87.1%とほとんどの人が毎日食べていますが、男子 13.4%・女子 11.3%の人が食べない日もあり、男子 1.3%・女子 1.5%の人が欠食しています。



(2) 食事を一緒に食べる人について

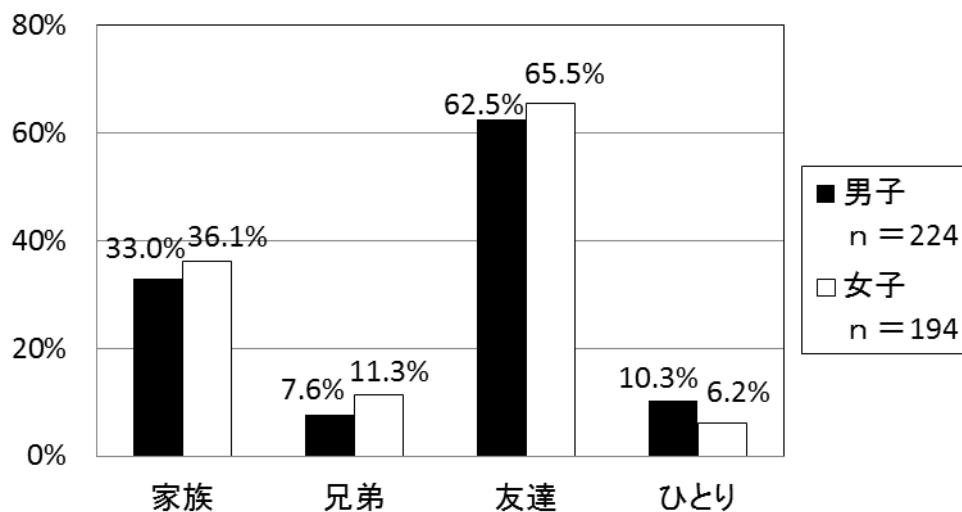
男子・女子ともに「家族」と一緒に朝食を食べている人が最も多く、次いで「ひとり」「兄弟」で食べていました。

<朝食>



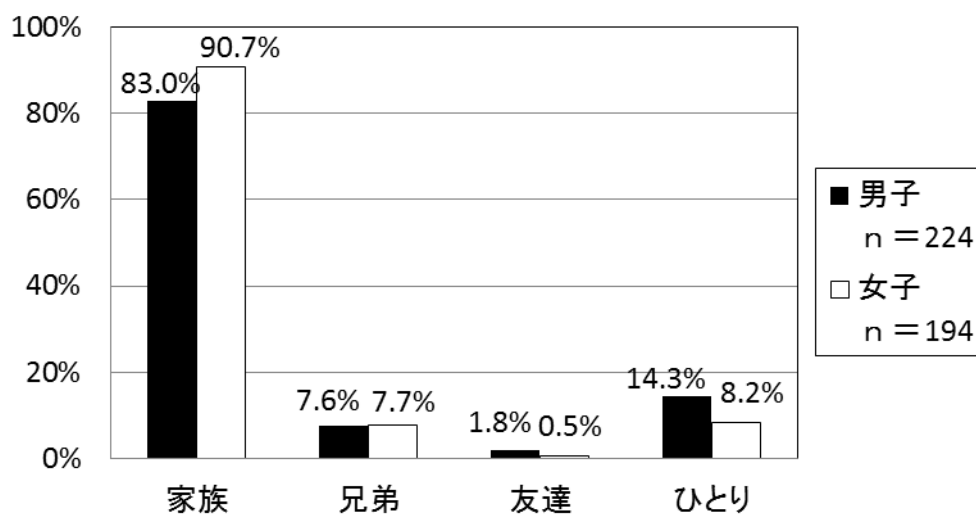
男子・女子ともに「友達」と一緒に昼食を食べている人が最も多く、次いで「家族」と食べていました。

<昼食>



男子 83.0%・女子 90.7%が「家族」と一緒に夕食を食べていましたが、ひとりで夕食を食べている人もいました。

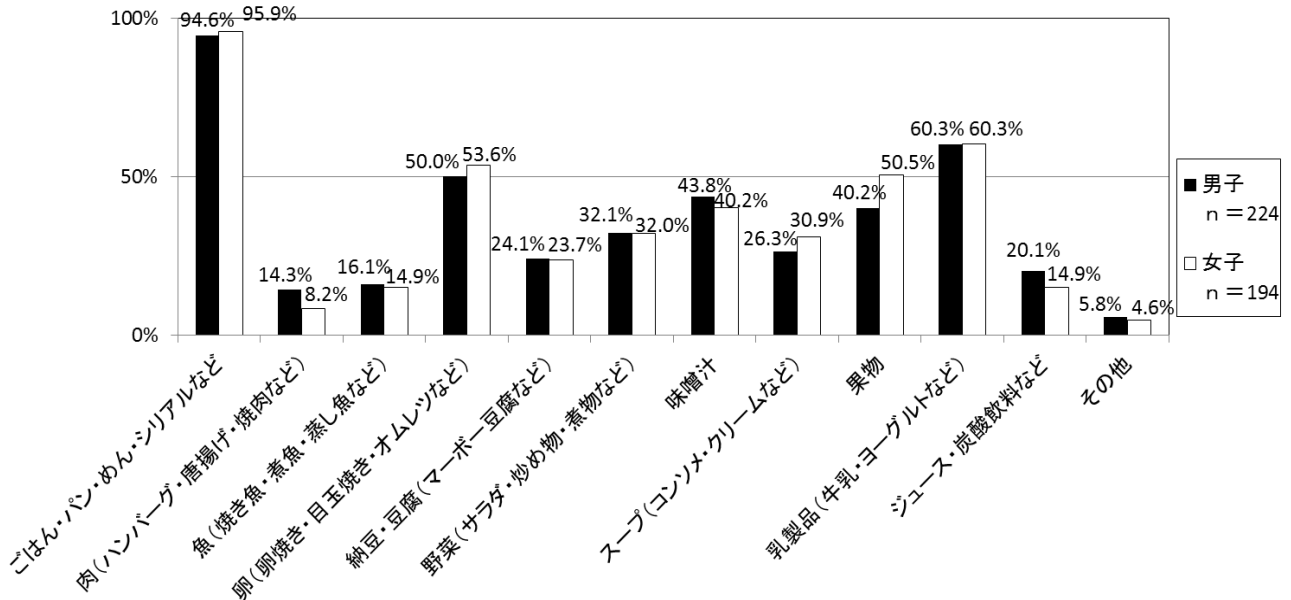
<夕食>



(3) 食事内容

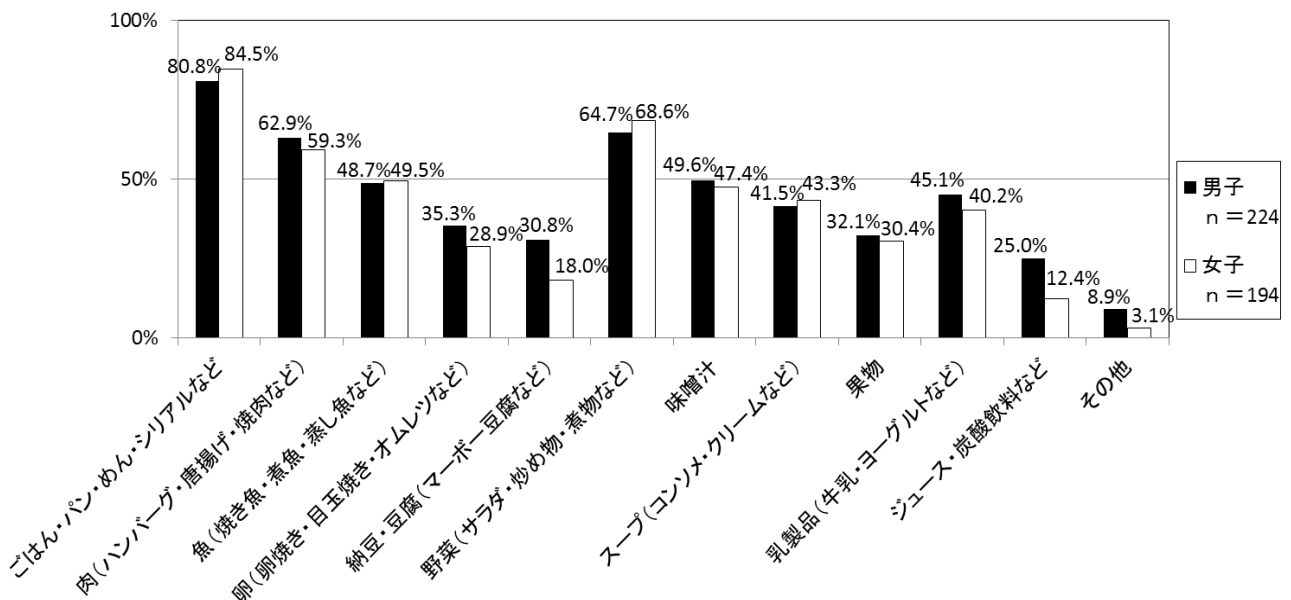
朝食の内容は、男子・女子ともに主食、乳製品、卵の順に多く摂取していました。

<朝食>

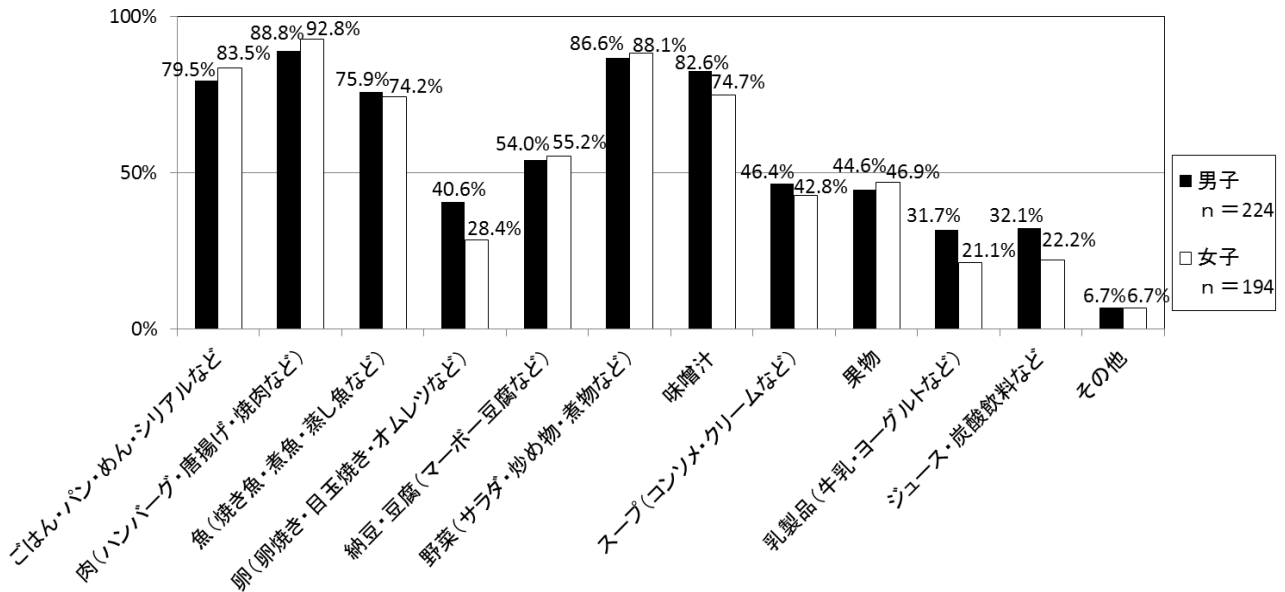


昼食の内容は、男子・女子ともに主食、野菜、肉の順に多く摂取していました。

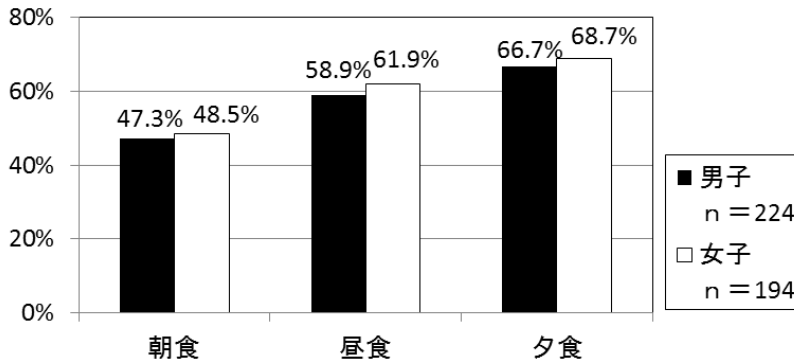
<昼食>



夕食の内容は、男子・女子ともに主食、肉、野菜の順に多く摂取していました。
 <夕食>

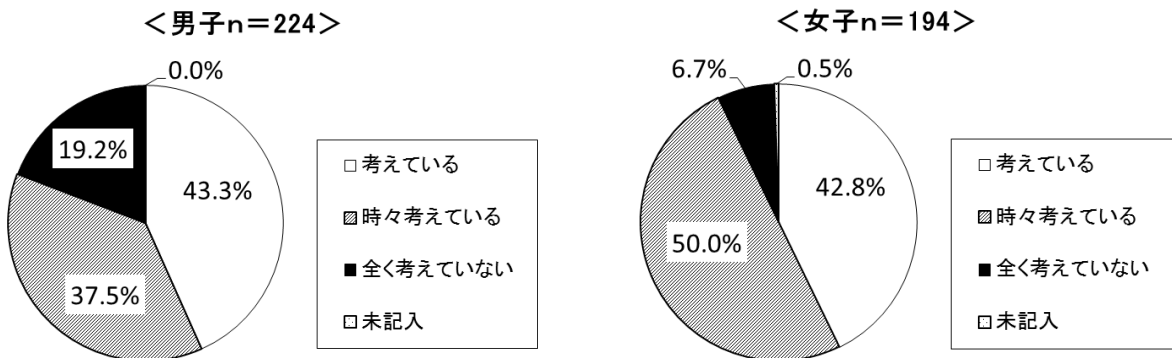


「主食＋主菜＋副菜または汁物」のそろった「朝食」をとっている男子は47.3%・女子は48.5%、「夕食」をとっている男子は66.7%・女子は68.7%となっています。

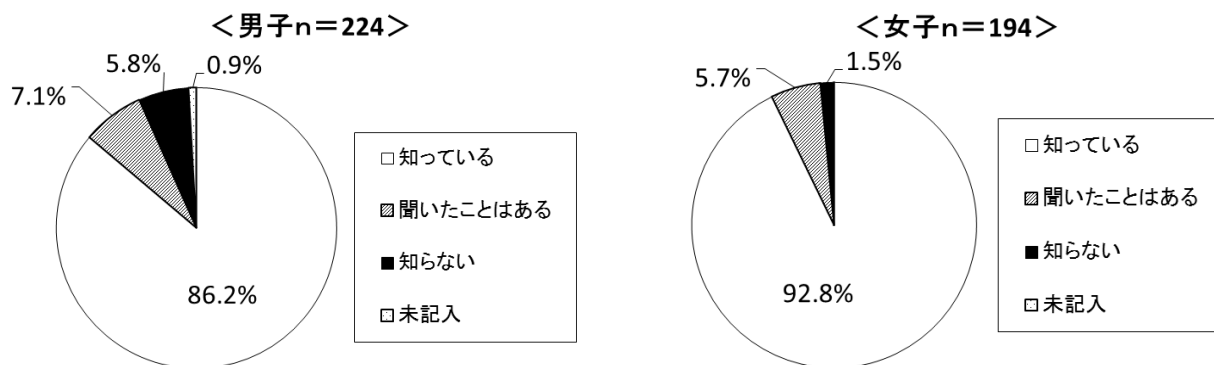


(4) 食べ残しや食品の廃棄が発生していることについて

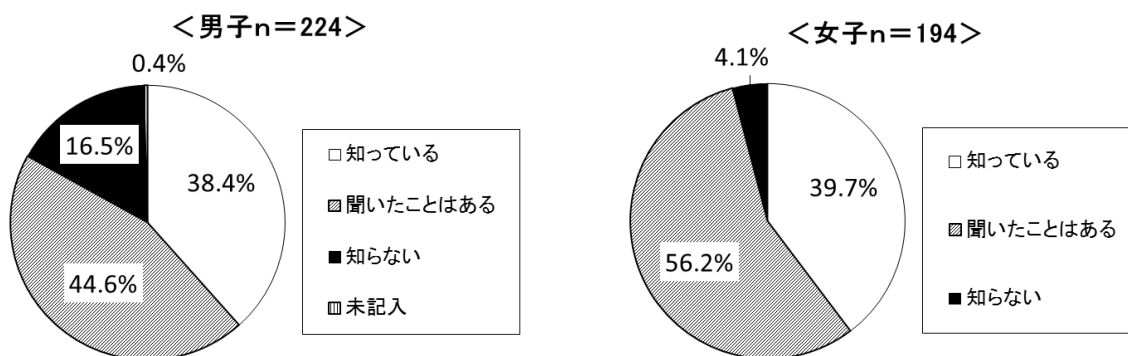
食べ残しや食品の廃棄が発生していることについて、男子は「考えている」、女子は「時々考えている」が最も多くなっています。



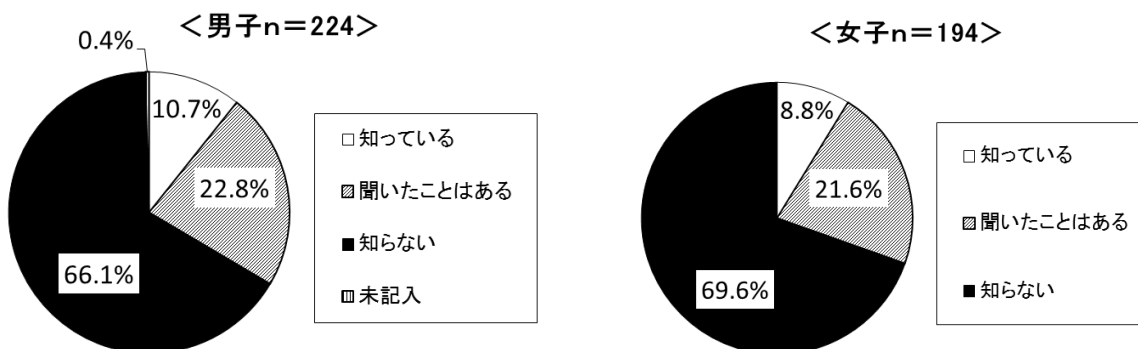
(5) 狛江市の特産物の認知度について
男子、女子ともに認知度が高いことがわかります。



(6) 「食育」という言葉の認知度
男子・女子とも「食育」という言葉を「聞いたことはある」が最も多いです。



(7) 「食育の日」の認知度
「知らない」と回答した男子・女子が最も多く、認知度が低いことがわかります。



【 食育に関するアンケート調査票（一般） 】

あなたのことについてお聞きします。下記の問を読み、該当する番号や欄に○をつけてください。

問1 あなたの性別はどちらですか。

1 男	2 女
-----	-----

問2 あなたの年齢は何歳ですか。

1 15～19 歳	2 20～29 歳	3 30～39 歳
4 40～49 歳	5 50～59 歳	6 60 歳以上

問3 毎日、朝食を摂っていますか。

1 毎日食べる	2 週に4～6日食べる	3 週に1～3日食べる	4 食べない
---------	-------------	-------------	--------

問4 食事では、主に何を食えることが多いですか。あてはまる欄に○をつけてください。

	朝食	昼食	夕食
主食（ごはん・パン・麺など）			
主菜（肉・魚・卵・大豆製品を使った料理など）			
副菜（野菜・きのこ・海藻を使った料理など）			
汁物（味噌汁・スープなど）			
果物			
乳製品（牛乳・ヨーグルトなど）			
飲み物（ジュース・コーヒーなど）			

問5 家庭や食品産業において食べ残しや食品の廃棄が発生していることに関して、日頃から「もったいない」と考えたことがありますか。

1 考えている	2 時々考えている	3 全く考えていない
---------	-----------	------------

問6 狛江市の農産物を直売所などで購入したことがありますか。

1 購入したことがある	2 購入したことがない	3 あることを知らなかった
-------------	-------------	---------------

問7 狛江市の特産品が枝豆と知っていますか。

1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
---------	------------	--------

問8 あなたは「食育」という言葉を知っていますか。

1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
---------	------------	--------

問9 毎月19日が「食育の日」ということを知っていますか。

1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
---------	------------	--------

ありがとうございました。

【 アンケート調査票 (小学生) 】

あなたのことについてお聞きします。下記の問を読み、該当する欄に○をつけてください。

問1 あなたの性別を記入してください。()

問2 毎日、朝ごはんを食べていますか。

毎日食べる		週に4～6日食べる	
週に1～3日食べる		食べない	

問3 食事の時に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。

している		ときどきしている		していない	
------	--	----------	--	-------	--

問4 食事は誰と食べましたか。あてはまるものに○をつけてください。

	家族	兄弟	友達	ひとり
昨日の朝ごはん				
昨日の昼ごはん				
昨日の夕ごはん				
今日の朝ごはん				

問5 食事では、何を食べましたか。あてはまるもの全部に○をつけてください。

料理	食事	昨日の朝ごはん	昨日の昼ごはん	昨日の夕ごはん	今日の朝ごはん
ごはん・パン・めん・シリアルなど					
肉 (ハンバーグ・唐揚げ・焼肉など)					
魚 (焼き魚・煮魚・蒸し魚など)					
卵 (卵焼き・目玉焼き・オムレツなど)					
納豆・豆腐 (マーボー豆腐など)					
野菜 (サラダ・炒め物・煮物など)					
味噌汁					
スープ (コンソメ・クリームなど)					
果物					
乳製品 (牛乳・ヨーグルトなど)					
ジュース・炭酸飲料など					
その他 ()					

ありがとうございました。

【 アンケート調査票 (中学生) 】

あなたのことについてお聞きします。下記の間を読み、該当する欄に○をつけてください。

問1 あなたの性別を記入してください。()

問2 毎日、朝ごはんを食べていますか。

毎日食べる		週に4～6日食べる	
週に1～3日食べる		食べない	

問3 食事は下記の誰と食べますか。あてはまるものに○をつけてください。

	家族	兄弟	友達	ひとり
朝ごはん				
昼ごはん				
夕ごはん				

問4 食事では、主に何を食えることが多いですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	朝ごはん	昼ごはん	夕ごはん
ごはん・パン・めん・シリアルなど			
肉 (ハンバーグ・唐揚げ・焼肉など)			
魚 (焼き魚・煮魚など)			
卵 (目玉焼き・卵焼きなど)			
納豆・豆腐 (マーボー豆腐など)			
野菜 (サラダ・煮物など)			
味噌汁			
スープ (コンソメ・クリームなど)			
果物			
乳製品 (牛乳・ヨーグルトなど)			
ジュース・炭酸飲料など			
その他 ()			

問5 家庭において食べ残しやコンビニなどで食品が捨てられていることに関して、「もったいない」と考えることがありますか。

1 考えている	2 時々考えている	3 考えていない
---------	-----------	----------

問6 狛江市の特産品が枝豆と知っていますか。

1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
---------	------------	--------

問7 あなたは「食育」という言葉を知っていますか。

1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
---------	------------	--------

問8 毎月19日が「食育の日」ということを知っていますか。

1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
---------	------------	--------

ありがとうございました。

資料2 食育推進事業実績

狛江市食育推進庁内連絡会にて、狛江市で実施している食や農に関する事業について平成24年度より把握しています。
 (保育園・小・中学校については、一般市民が参加できる事業のみ計上しています。)

主管課	事業名	対象・定員	内容	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
				開催回数	参加者延べ人数	開催回数	参加者延べ人数	開催回数	参加者延べ人数
健康推進課	親子で歯ッピー歯みがき教室	生後6か月～1歳未満のお子さんと保護者 18人	保護者の歯科健診とお子さんの歯について勉強します	6回/年	100人	8回/年	139人	8回/年	148人
	離乳食教室Step 1	生後4～5か月児の保護者 40人	5～6か月児の離乳食の講話と試食	12回/年	196人	12回/年	237人	12回/年	288人
	離乳食教室Step 2 (平成24年度は育児教室「もくもく学級」として実施)	生後7～8か月児の保護者 40人	7～8か月児の離乳食の講話と試食	3回/年	26人	12回/年	154人	12回/年	225人
	離乳食教室Step 3	生後8～10か月児の保護者 40人	9～11か月児の離乳食の講話と試食	—	—	—	—	6回/年	163人
	食育料理教室「取り分け離乳食」	生後4～6か月児の保護者 16人(10人まで保育付き)	大人の食事を作り、そこから取り分けて離乳食を作ります	6回/年	59人	6回/年	53人	5回/年	50人
	むし歯予防教室	1歳～2歳のお子さんのいる保護者	むし歯予防について歯科衛生士と栄養士による話	24回/年	164人	24回/年	153人	24回/年	139人
	5歳児歯科健康教室	5歳児 18組	歯科健診・フッ素塗布・歯みがき練習 栄養士と歯科衛生士による話	1回/年	13人	1回/年	28人	1回/年	10人
	親子クッキング・ブラッシング教室	小学生の親子 12組	親子で料理・歯科健診・フッ素塗布	1回/年	6人	1回/年	11人	1回/年	8人
	食育講習会「狛江の畑を食べよう！」	①小学校1～4年生の親子 12組②市民の方	農業委員の話、狛江産の野菜を使ったおやつ作り	2回/年	37人	2回/年	35人	2回/年	39人
	食育料理教室「わくわくクッキング」	市民の方 20人	栄養士による話、旬の野菜を使った調理実習・試食 狛江産野菜のお土産付き	3回/年	24人	4回/年	69人	4回/年	71人
	食育料理教室「プレパパ・プレママクッキング」	妊婦さんとその家族 16人	栄養士による話、調理実習・試食	—	—	2回/年	15人	2回/年	22人
	食育講習会「親子でクッキング」	3～5歳児の親子 8組	保育園栄養士と一緒におやつ作り	—	—	1回/年	13人	1回/年	10人
	食育講演会	市民・在勤の方 80人	食育に関する講話、狛江産野菜のお土産付き	—	—	1回/年	64人	1回/年	59人
	世代間交流会「ミンジーと一緒にクッキング」	3～5歳児の親子 8組	民生・児童委員さんと一緒に狛江産野菜を使ったおやつ作り	—	—	2回/年	31人	2回/年	26人
清掃課	生ごみ堆肥化講習会	市民の方	畑や庭、ベランダでの生ごみの利用法について学びます	9回/年	26人	10回/年	17人	10回/年	22人

主管課	事業名	対象・定員	内容	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
				開催回数	参加者延べ人数	開催回数	参加者延べ人数	開催回数	参加者延べ人数
中央公民館 および 西河原公民館	子どもの広場	小学校1・2年生 15人	工作・絵・料理・レクリエーションなど	6回/年	59人	6回/年	99人	5回/年	97人
	野外サークル	小学校4年生～ 中学校3年生 20人	キャンプの実技指導、ハイキング、 バーベキューなど	13回/年	167人	12回/年	135人	11回/年	112人
	どろんCO農園	小学校3年生～ 中学生3年生 20人	1年間をかけて農業体験と収穫祭など	16回/年	243人	15回/年	118人	16回/年	245人
地域活性化課	農業ウォッチングラリー	市内在住者 100人 (小学生以下は保護者同伴) (1グループ5人まで)	数か所の畑を回りながら、農産物を 収穫します	1回/年	90人	1回/年	115人	1回/年	80人
	体験農園	年間を通じて熱意を持って 農作業に取り組める方	市民農園とは違い、農家の一定の指導の もと種まきから収穫までの野菜づくりに 取り組むことができ、収穫した野菜は全 て持ち帰ることができます	—	32人	—	76人	—	78人
高齢障がい課 (旧:介護支援課)	介護予防事業・栄養改善 教室	65歳以上の市民の方 15人	管理栄養士・運動指導員を講師とし 食事と体力測定を行います	8回/年	88人	8回/年	65人	-回/年	-人
	地域支援事業「会食会」	65歳以上の市民の方 4会場 定員各50人	ボランティアによる食事の提供と レクリエーション	48回/年	1,588人	66回/年	2,149人	84回/年	2,492人
学校教育課	親子クッキング	市内在住の小中学生 と保護者(二人一組)6組	親子で中学校給食を作ります。	1回/年	12人	—	—	—	—
	食育講演会	市民の方	金田雅代教授より「食事の大切さと家 庭でできる学校給食をいかした食育の 方法」について講話	1回/年	20人	—	—	—	—
子育て支援課 <子ども家庭支 援センター>	たんぼぼThinking	0～3歳のお子さんと 保護者 先着15～20組	子どものことばや発達のこと、 離乳食・幼児食等について	4回/年	84人	4回/年	104人	4回/年	128人
	Daddy's Kitchen	0～6歳のお子さんと 両親 先着8家族	お父さんが料理を作り、 それを家族と一緒に食べます	3回/年	46人	3回/年	57人	2回/年	45人
	離乳食教室	生後9か月～1歳半まで の保護者 先着20人	狛江栄養士会による講話と試食	2回/年	67人	2回/年	73人	2回/年	72人
	幼児食教室	1歳半～3歳までの お子さんと保護者 先着15組	幼児期の食生活の特徴について 狛江栄養士会による講話と試食	1回/年	17人	1回/年	26人	1回/年	29人
子育て支援課 <和泉児童館>	離乳食教室	生後9か月～1歳半まで の保護者 先着25人	狛江栄養士会による講話と試食	2回/年	60人	2回/年	73人	2回/年	60人
	幼児食教室	1歳半～3歳までの お子さんと保護者 先着15組	幼児期の食生活の特徴について 狛江栄養士会による講話と試食	1回/年	31人	1回/年	29人	1回/年	38人
合 計				174回/年	3,255人	207回/年	4,138人	220回/年	4,756人

資料3 狛江市健康づくり推進協議会委員名簿

	氏名	選出区分	備考
1	櫻井 尚子	学識経験者 (東京慈恵会医科大学教授)	会長
2	二宮 雅也	学識経験者 (文教大学准教授)	副会長
3	山口 久美子	東京都多摩府中保健所	
4	阿部 里津子	狛江市医師会	
5	塩谷 達昭	狛江市歯科医師会	
6	小澤 明子	狛江市薬剤師会	
7	鈴木 礼子	学識経験者 (東京医療保健大学准教授)	
8	今田 緑	学識経験者 (管理栄養士)	
9	加藤 枝美子	学識経験者 (元体育指導委員)	
10	阿部 博子	市民委員	
11	有馬 祐三	市民委員	